2024年度　事業報告書

（2024年4月1日から2025年3月31日まで）

OKINAWA UNIVERSITY

目次

理事長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅰ．法人概要

１．学校法人の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

２．大学の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

３．大学運営組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

４．役員・評議員の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

５．設置する学部学科・研究科の名称及び
　　入学定員・入学者数・収容学生数・専任者数・・・・・・・・・・・・・・・ 14

Ⅱ．事業の概要

１．第六次中期計画の重点課題と基本課題を中心とする主要事業・・・・・・・15

２．地域貢献事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

３．学生活動の実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

４．学事報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

Ⅲ．事業の概要（データ）

１．志願者数・合格者数・入学手続者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

２．入学金、授業料等の費用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

３．学内奨学金支給実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

４．単位互換協力校との派遣・受入状況、留学生の受入状況・・・・・・・・・45

５．主な資格取得状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

６．就職率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

７．卒業者数・修了者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

８．卒業者数累計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

Ⅳ．財務の概要

１．資金収支計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

２．事業活動収支計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

３．貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

４．経年比較表　①資金収支計算書　②事業活動収支計算書　③貸借対照表・・52

５．主要な財務比率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56

６．事業活動収支関連グラフ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

理事長挨拶

学校法人　沖縄大学
理事長　佐喜真　實

2024 年度の事業報告にあたりご挨拶を申し上げます。
平素より関係者の皆様には、本学の教育・研究活動に対し格別の御指導と御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
本学は、2018 年の創立 60 周年を機に掲げた長期ビジョン「Okidai Vision 2028」のもと、「地域がキャンパス、地域のキャンパス」という将来像の実現に向けて、全学的な取組を推進してまいりました。

2019 年度から 2023 年度までの 5 年間にわたり実施した第五次中期計画では、「地域共創・未来共創の大学へ」という理念のもと、本学の特色を伸ばす「重点課題」と、大学の基盤を堅実に維持する「基本課題」と位置づけて教育活動や業務を推進してきました。その間、コロナ禍のため一部計画見直しが必要となったものの、様々な困難のなかで得られた経験を次の計画へと活かすことができました。

2024 年度は、Okidai Vision 2028 の後半となる第六次中期計画の初年度にあたります。本計画では、第五次中期計画で得られた成果とその過程で明らかとなった課題をふまえ、本学の使命と社会的責任をより一層果たすための施策を展開してまいりました。引き続き、教育の質保証の強化とともに、地域に開かれた大学としての歩みを着実に進めてまいりますので、今後とも皆様の変わらぬ御支援と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

第六次中期計画初年度の「2024 年度事業報告書」がまとまりましたので、以下概況を御報告致します。

（1）収支財政状況

2024 年度事業活動収入の合計は 2,765 百万円（前年比 20 百万円減、予算比 92 百万円減）、事業活動支出は 2,732 百万円（前年比 74 百万円増、予算比 111 百万円減）となりました。

基本金組入前当年度収支差額はプラス 33 百万円となり、本業である教育活動収支差額は、プラス 26 百万円でした。

収入においては、在籍者数が見込みを下回ったため、学生生徒納付金収入は前年比 46 百万円減、予算比 22 百万円減となりました。支出では、教育研究活動等に係る経費で、国の修学支援新制度の充実により学内奨学金利用者が減ったため、予算比 99 百万円減となりました。人件費においては、中途退職者による退職金支出がありましたが予算内で収まりました。教育活動支出全体としては前年比 138 百万円増となりました。

今年度の事業活動収支差額比率は、プラス 1.2%です。同比率の推移を見ますと、2022 年度はプラス 4.0%、2023 年度はプラス 4.6%、今年度（2024 年度）はプラス 1.2%と黒字を維持しておりますが、入学者の安定確保や退学率の削減、競争的補助金の獲得、経費の見直し等を行い、より一層の経営基盤の強化と教育環境の維持改善に努めてまいります。

（２）「地域共創」の取り組み

今年度も「地域共創・未来共創の大学へ」の理念の体現につながる新たな連携協定が締結されました。学生交流および学術交流を図ることを目的として、朝鮮大学校（韓国）、東京外国語大学（東京）との協定を締結しました。また、自治体との継続した取り組みとして、那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座では、全６回にわたり異文化社会などをテーマとして講座を開催しました。また、近隣自治体と連携し沖縄が抱える課題、子どもの貧困対策についての研修事業を行いました。そのほか、国際コミュニケーション学科の学生が、連携協定に基づき那覇市議会と那覇市の抱える問題や改善案などを話し合い「那覇市若者ミライ議会」を実施したほか、包括連携協定先の首里まちづくり研究会の協力のもと、英語で作成した首里マップを首里城復興祭で配布しました。

地域の課題を発見し、その解決策をあみだす実践的な取り組みは、学生の「主体的な学び」を呼び起こし、地域の皆様や卒業生が本学に集い、教職員や学生と共に学ぶ機会を得られたことは、長期ビジョンに掲げる「地域がキャンパス、地域のキャンパス」の将来像の実現につながったと考えております。

（３）学生の活躍

2024 年度も学生達が素晴らしい成果を上げました。スポーツ部門では、男子バスケットボール部は沖縄県大学バスケットボール選手権大会で第 32 回の 3 大会連続優勝、男子サッカー部は OFA 第 21 回沖縄県学生サッカーリーグ優勝、女子サッカー部は KBC 学園杯争奪 OFA 沖縄県女子サッカーリーグ 2024 優勝を果たしました。水球部は、第 100 回日本学生選手権水泳競技大会九州地区予選会優勝で全国大会派遣、空手部では第 73 回九州地区大学空手道選手権大会＆第２回九州学生空手道選手権大会において団体型３位、陸上競技部でも、第 79 回九州陸上選手権大会男子 4×100m で１位に入賞しました。また、個人の活躍も多くありました。福祉文化学科２年次の喜屋武咲さんが第２回 Baseball５アジアカップ 2024 に選出され優勝に貢献、同じく福祉文化学科３年次の国吉翔太さんは、第 27 回全日本大学軟式野球国際親善大会の代表に選出、こども文化学科の泉水ほのかさんは、第 63 回全日本学生なぎなた選手権大会で第３位に入賞しました。その他、吹奏楽部で第 49 回沖縄県アンサンブルコンテスト銅賞、地方の時代映像祭 2024 市民・学生・自治体部門で、国際コミュニケーション学科の古波蔵好太郎さんが、優秀賞を受賞しました。

また、各種大会等に受賞せずとも、学生一人一人が地域社会の一員として貢献・活躍できる活動を行いました。福祉文化学科の吉川ゼミでは、学生が沖縄「平和の礎」名前を読み上げる集いに参加、経法商学科の島袋ゼミでは、高齢者の見守りボランティア活動に参加、体育会所属の学生約 90 名が、国場地区自治会と連携し地域の清掃活動を実施しました。

（４）教員採用試験及び国家試験等の合格者数について

教員採用試験において、現役合格者 30 名、既卒 31 名、合計で 61 名となり、2007 年のこども文化学科設置から 17 年目の 2024 年度は過去最高の現役合格者数となりました。また、管理栄養士国家試験では 42 名（現役 41 名、既卒 1 名）、社会福祉士国家試験では 49 名（現役 24 名、既卒 25 名）が合格しました。

（５）研究成果に係る表彰

教員の研究成果が高く評価され、外部団体より各種表彰をいただきました。福祉文化学科所属の吉川麻衣子教授は、沖縄戦を生きぬいた人びとの体験と想いの継承に関する研究を行っており、毎年慰霊の日には式典会場で体験者の話を聴く活動や著書・論文（沖縄戦体験者の語り合いへのプロセスにおける心理・社会的要因）執筆を手掛けてきました。それが高く評価され、第 46 回沖縄研究奨励賞・社会科学部門を受賞しました。こども文化学科教授盛口満教授が執筆した著書、「琉球植物民俗事典ー聞き書き琉球列島の植物利用」は、これまで見逃されてきた植物利用の民民俗文化を記録した民族誌、として評価され、第 52 回伊波普猷賞を受賞しました。

情報化社会が加速度的に進展する中、ICT 活用教育を推進すべく新入生はパソコンを必携としました。また、それを支えるため 4 月に情報システム管理室を開設しました。
学生・保護者、社会の期待に応えられるよう役職員一体となって歩みを進め、学生の「夢創造・夢実現」につなげていきたいと考えておりますので、今後とも関係各位の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

＊文中の金額は単位未満切り捨てで表示

Ⅰ．法人概要

１．学校法人の沿革

1956 年 11 月　財団法人 嘉数学園設立認可
1958 年　6 月　沖縄短期大学開学式
1960 年 12 月　学園本館、図書館竣工
1961 年　2 月　沖縄大学設置認可、沖縄短期大学は沖縄短期大学部へ変更
　　4 月　沖縄大学入学式
　　5 月　沖縄大学開学祝賀式典
1962 年　2 月　嘉数学園創立 5 周年記念式典
　　4 月　大学ビル竣工
1964 年　9 月　学生会館竣工
1966 年 11 月　西原総合グラウンド完成
1968 年 11 月　沖縄大学創立 10 周年記念式典
1972 年 10 月　全国大学準硬式野球大会優勝
1974 年 12 月　公開講座開始
1976 年　1 月　土曜教養講座開始
　　2 月　移動市民大学開始（宮古・八重山）
1978 年　4 月　「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」の理念を打ち出し、新生沖縄大学として再出発
1979 年　2 月　入試制度改革
　　4 月　本土派遣学生制度発足（立命館大学、上智大学）
　　4 月　「沖縄大学広報」創刊号発行
1981 年　4 月　本土派遣学生制度（法政大学）
　　4 月　4 ヵ年一貫ゼミナール体制の確立
　　6 月　沖縄大学創立 20 周年及び沖縄短期大学 23 周年記念祝賀会
　　7 月　創立 20 周年記念事業「教育実践セミナー」開催
1982 年　9 月　琉球弧縦断移動市民大学開始
1983 年　7 月　「沖縄戦と基地問題を考える沖縄セミナー」開始（1990 年度まで実施）
1984 年 11 月　第 100 回土曜教養講座
1985 年　2 月　1 号館竣工
　　2 月　津田塾大学と単位互換協定締結
1988 年　4 月　沖縄短期大学を沖縄大学短期大学部に名称変更
　　6 月　沖縄大学創立 30 周年記念式典同記念事業「沖大地域研究所の設立」及び「沖大後援会奨学金及び特別奨学金制度の創設」
1989 年 11 月　2 号館・図書館棟竣工
　　11 月　体育館移管
1990 年　3 月　札幌大学と単位互換協定締結

1991 年　3 月　旭川大学と単位互換協定を締結
　　3 月　和光大学と単位互換協定を締結
　　4 月　中国・中央民族大学と学術・教育交流協定を締結
　　5 月　沖縄大学と沖縄尚学高校を経営する法人の分離
　　6 月　第 200 回土曜教養講座
　　7 月　「沖縄大学広報」50 号発行
1992 年 12 月　京都精華大学と単位互換協定を締結
1996 年 12 月　法経学部法経学科設置認可
1997 年　1 月　放送大学と単位互換協定を締結
1997 年　4 月　法経学部法経学科の開設
1998 年 12 月　人文学部国際コミュニケーション学科・福祉文化学科設置認可
1999 年　3 月　3 号館竣工
　　4 月　人文学部国際コミュニケーション学科・福祉文化学科の開設
　　8 月　岐阜経済大学と単位互換協定を締結
　　10 月　沖縄大学マルチメディア教育研究センター設立
2000 年　4 月　シスコ・ネットワーキング・アカデミー開講
　　7 月　台湾・東海大学と学術・教育交流覚書を締結
2001 年　5 月　韓国・聖公会大学と学生交流及び学術交流協定締結
　　10 月　沖縄大学エコキャンパス宣言
2002 年　4 月　第 1 回ジュニア研究支援
　　5 月　国際規格 ISO14001（環境マネジメントシステム）審査登録
2003 年　1 月　シドニー工科大学と学生交流協定を締結
　　4 月　早期卒業制度、長期履修制度の導入
　　4 月　寄付講座規程制定
　　4 月　（財）大学基準協会正会員登録
2004 年　1 月　東京国際大学と単位互換協定を締結
　　5 月　法政大学と単位互換協定を締結
　　11 月　「沖縄大学広報」100 号発行
2005 年　4 月　沖縄大学大学院　現代沖縄研究科を開設
　　7 月　茨城キリスト教大学と単位互換協定を締結
　　7 月　第一次中長期経営計画（2005～2007 年度）を策定
2006 年　4 月　学生部に学生生活支援室を新設
　　6 月　広島修道大学と単位互換協定を締結
2007 年　3 月　大学基準協会認証評価・相互評価
　　4 月　人文学部こども文化学科の開設
　　7 月　「菓子等食品ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾅｰ養成ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」が文科省の社会人学び直し GP に採択
　　7 月　「美ら沖縄・環境まちづくりリーダー養成事業」が文科省の現代 GP に採択
　　8 月　「ノートテイクから広がる大学づくり」が文科省の特色 GP に採択

「学びあい･支えあいの地域教育の拠点創生」が文科省の学生支援 GP に採択

2008 年　5 月　西安交通大学との友好交流協定を締結

6 月　開学記念日　沖縄大学 50 周年記念式典・祝賀会

6 月　新沖縄大学宣言「地域共創・未来共創の大学へ」

6 月　創立 50 周年記念史『小さな大学の大きな挑戦』を刊行

11 月　第二次中長期経営計画（2008 年度～2010 年度）を策定

2009 年　8 月　第一回教職合同研修会を開催

8 月　「産学連携業界別就職特別ｾﾞﾐの開設」が文科省の学生支援 GP に採択

8 月「全国の地域で活躍できるプロフェッショナル＜まちづくリスト＞育成プログラム」が文科省の戦略的大学連携支援プログラム（戦略 GP）に採択

9 月「清ら島づくり南西諸島高大連携プログラム」が文科省の大学教育推進プログラム（学生支援 GP）に採択

2010 年　1 月　「学校法人沖縄大学」へ法人名変更

5 月　「沖縄県福祉のまちづくり推進功労者」沖縄県知事賞受賞

6 月　新本館・体育館竣工記念式典・祝賀会

11 月　上海・東華大学との学術交流協定を締結

2011 年　6 月　台湾・金門大学との学術交流協定を締結

7 月　第三次中長期経営計画（2011～2013 年度）を策定

5 月　那覇市制施行 90 周年記念特別表彰「教育・スポーツ功労部門」　表彰

2012 年　4 月　「地域共創センター」開設

4 月　人文学部福祉文化学科　社会福祉専攻、スポーツ福祉専攻の 2 専攻へ

7 月　第 56 回沖縄タイムス賞・社会活動賞受賞

10 月　新沖縄大学宣言「地域共創・未来共創の大学へ」を沖縄大学憲章へ改称

11 月　第 500 回土曜教養講座開講

2013 年　4 月　経営企画室を新設

2014 年　2 月　学生歌「未来に続く学舎で」（作詞：糸澤幸子　作曲：知花竜海）制作

3 月　大学基準協会認証評価・相互評価により大学基準適合認定（2014～2021 年度）

3 月　第四次中長期経営計画（2014 年度～2017 年度）を策定

2015 年　2 月　那覇市と学校法人沖縄大学との包括連携協力に関する協定を締結

2 月　日本聴覚障害高等教育支援ネットワークに加盟

4 月　図書館にライティングセンターを設立

11 月　私立大学等改革総合支援事業タイプ 2「地域貢献」選定

2016 年　2 月　留学生別科閉科

11 月　私立大学研究ブランディング事業（タイプ A）採択

11 月　ベトナム　ホーチミン市師範大学と学術交流協定を締結

2017 年　1 月　沖縄大学アネックス共創館及び隣接小グラウンド、整備開始

3 月　私立大学等改革総合支援事業タイプ 1「教育の質的転換」選定

4 月　沖縄大学アネックス共創館　供用開始

6 月　関東学院大学と大学間交流協定締結

2018 年　2 月　私立大学等経営強化集中支援事業（タイプ A）　選定
2018 年　6 月　学生食堂『TERRACE　555』オープン
　　6 月　沖縄大学創立 60 周年記念式典・祝賀会
　　6 月　歴史資料展示エリア設置
　　6 月　沖縄大学長期ビジョン『OKIDAI VISION 2028』骨子策定
　　8 月　健康栄養学部管理栄養学科　設置認可
　　11 月　創設者「嘉数昇」先生胸像設置
　　12 月　４号館（新学部棟）竣工
2019 年　2 月　私立大学等経営強化集中支援事業　選定
　　3 月　長期ビジョン　OKIDAI VISION 2028 を策定
　　3 月　第五次中期計画（2019 年度～2023 年度）を策定
　　4 月　健康栄養学部管理栄養学科の開設
2020 年　3 月　長田第四駐車場完成
　　4 月　法経学部法経学科を「経法商学部経法商学科」に名称変更
　　9 月　台湾　東呉大学と学術交流協定を締結
2021 年　3 月　長田第五駐車場完成
2021 年　4 月　法務監査室を新設
2021 年　12 月　アネックス共創館 3 階・4 階改修工事完了
2022 年　11 月　1 号館 5 階改修工事完了
2023 年　5 月　韓国　龍仁大学と学術交流協定を締結
　　9 月　愛知東邦大学　大学間連携における協定を締結
　　10 月　台湾　輔人大学と学術交流協定を締結
2024 年　3 月　第六次中期計画（2024 年度～2028 年度）を策定
　　4 月　情報システム管理室を新設
　　8 月　東京外国語大学と大学間連携における協定を締結
2025 年　3 月　韓国　朝鮮大学校と学術交流協定を締結

２．大学の理念

沖縄大学憲章
～地域共創・未来共創の大学へ～

沖縄大学は、創立 50 周年の記念日を迎えるにあたり、「地域共創・未来共創の大学へ」を新たな大学の理念として確認し、以下の 3 つの目標を立て、実行することを宣言しました。

1. 地球市民・地域市民の共育の拠点

(1)地球市民のための知の集積の拠点:

沖縄大学の大学の理念である「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」を大学存立の使命として深く自覚し、21 世紀型社会である「グローカル社会」の要請に応える形でこの理念を「地域共創・未来共創の大学へ」と発展させ、地球大で考え足元から行動を起こす 21 世紀型市民である「地球市民」の共育をめざします。

(2)地域市民のための地域教育の拠点:

沖縄大学は、地域に根ざす大学として沖縄にしっかりと根をおろし、教育と研究の相乗効果で沖縄の活性化に尽力し、そのことを通じて学生を共育し大学の活性化を図ります。また、県都那覇市にある大学として、「人々が相互に交流し、実践し、生涯学び続ける地域教育の拠点」となることをめざします。

2. 地球環境・地域環境に貢献する教育研究

(1)地球環境に取り組む実践教育:

21 世紀は、環境危機が深刻化する世紀です。地球温暖化が進行すれば、沖縄の未来も、世界の未来もありません。沖縄大学 は、「エコキャンパスからエコシティへ」というスローガンを掲げる大学として、まず足元のキャンパスから始め、沖縄から世界に向けて地球温暖化防止の実践教育を展開します。

(2)地域環境に取り組む研究提言:

戦争は最大の人権・環境破壊です。世界で年間 150 兆円も注ぎ込まれるといわれる軍事費は、貧困や地球環境問題などの地球規模の課題を解決するためにこそ使われるべきです。そのために沖縄大学は、自立した平和な沖縄を実現すべく、沖縄を軍事基地のない島とする多様な研究提言や実践に取り組みます。

3.共創力を育む大学教育への変革

(1)ユニバーサルな大学づくり:

現代の大学には障がいのある学生を含め多様な学生が入ってきます。沖縄大学は学生の力に依拠しつつ大学の責任を果たし、 多様な学生の学びと育ちを支援するユニバーサルな大学づくりをめざします。

⑵人間力としての共創力の涵養:

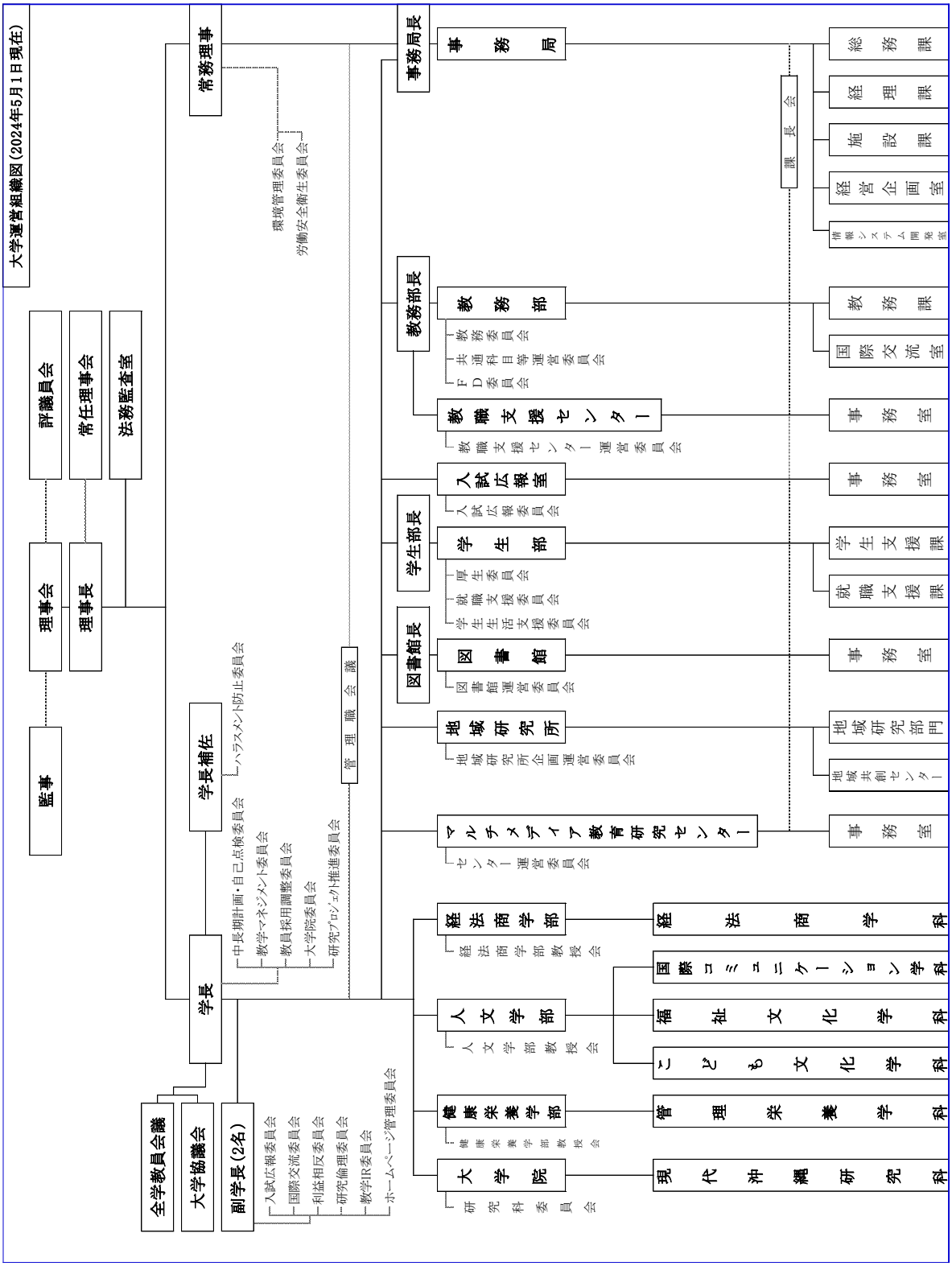
沖縄大学が育成をめざす 21 世紀型市民とは、「他者との対話と協働を通じてより良い社会を創っていく力のある人間」、「日々変動する社会の中で生涯学び続ける意志を持ち自らの人生を切り拓くことのできる人間」です。こうした 21 世紀型市民として学生を育成するために、沖縄大学の教育課程の編成にあたっては、「何を教えるか」 ではなく「何ができるようにするか」を重視します。アジアの人々との共生の基盤となる異文化への関心 と理解力を高めます。「競争力から共創力へ」、このスローガンのもと沖縄大学は、学生たちが互いに助け合い、教えあい、育ちあう環境を整備し、対話力・共創力・実践力のある人間の育成に努めます。

⑶学生主体の学びの場の共創:

人は、教えられることによって育つよりも、むしろ試行錯誤を含めた実践を通じて自ら学ぶことにより育つものです。従って 大学づくりにおいては、学生を大学の主人公にすえ、学生の可能性を最大限に引き出し、学生の主体的な参加を得て更に活力のある沖縄大学へと自己変革していきます。学生も教職員も、大学づくり、地域づくりの実践の中で育ち、育てられ、そのことを通じて沖縄大学は、今まで以上の高い評価を地域社会から勝ち得ていきます。

沖縄大学は、以上の 3 つの目標の実現に日々努め、地域共創・未来共創の大学に向け邁進します。

３．大学運営組織図


大学運営組織図（2024年5月1日現在）
監事
評議員会
理事会
常任理事会
理事長
法務監査室
常務理事
環境管理委員会
労働安全衛生委員会
学長補佐
ハラスメント防止委員会
中長期計画・自己点検委員会
教学マネジメント委員会
教員採用調整委員会
大学院委員会
研究プロジェクト推進委員会
管理職会議
学長
全学教員会議
大学協議会
副学長（2名）
入試広報委員会
国際交流委員会
利益相反委員会
研究倫理委員会
教学IR委員会
ホームページ管理委員会
事務局長
事務局
総務課
経理課
施設課
経営企画室
情報システム開発室
課長会
教務部長
教務部
教務委員会
共通科目等運営委員会
FD委員会
教務課
国際交流室
教職支援センター
教職支援センター運営委員会
事務室
入試広報室
入試広報委員会
事務室
学生部長
学生部
厚生委員会
就職支援委員会
学生生活支援委員会
学生支援課
就職支援課
図書館長
図書館
図書館運営委員会
事務室
地域研究所
地域研究所企画運営委員会
地域研究部門
地域共創センター
マルチメディア教育研究センター
センター運営委員会
事務室
経法商学部
経法商学部教授会
経法商学科
人文学部
人文学部教授会
国際コミュニケーション学科
福祉文化学科
こども文化学科
健康栄養学部
健康栄養学部教授会
管理栄養学科
大学院
研究科委員会
現代沖縄研究科

４．役員・評議員の概要

（1）役員・評議員

2025 年 3 月 31 日現在

	氏名	担当職務・現職	選出根拠
理事	佐喜真　實	学校法人沖縄大学　理事長	学識経験者
	山代　寛	学長（健康栄養学部教授）	学長
	金城　敬	学校法人沖縄大学　常務理事	評議員
	黒木　義成	副学長（人文学部教授）	評議員
	崔　珉寧	副学長兼図書館長（経法商学部教授）	評議員
	森田　泰弘	学長補佐（法務監査室 室長）	評議員
	仲里　武思	沖電開発株式会社 代表取締役社長	学識経験者
	喜納　憲利	元㈱りゅうせき常勤監査役　元㈱未来相互ガス監査役	学識経験者
	横井 理人	弁護士法人サイオン総合法律事務所　弁護士	学識経験者
	内間 徹	(株)沖縄銀行　常務取締役	学識経験者
監事	外間　政康	㈱沖縄海邦銀行 常勤監査役	寄附行為第 7 条
	渡名喜 郁夫	(株)琉球銀行　常務取締役	寄附行為第 7 条
評議員	喜納　憲利(議長)	元㈱りゅうせき常勤監査役　元㈱未来相互ガス監査役	学識経験者
	山代　寛	学長（健康栄養学部教授）	学長
	黒木　義成	副学長（人文学部教授）	副学長
	崔　珉寧	副学長兼図書館長（経法商学部教授）	副学長
	豊川　明佳	法経商学部長（経法商学部教授）	学部長
	渡邉ゆきこ	人文学部長（人文学部教授）	学部長
	下地みさ子	健康栄養学部長（健康栄養学部教授）	学部長
	嘉数　健悟	教務部長兼教職支援センター長（人文学部教授）	教務部長
	大城　貴之	学生部長（就職支援課長）	学生部長
	金城　直樹	事務局長	事務局長
	城間　尚樹	沖縄大学図書館事務長	職員
	大城　達司	沖縄大学施設課 課長	職員
	山城　成人	久米島製糖㈱　取締役	卒業生
	棚原　勝也	沖縄大学同窓会長　琉球朝日放送(株)編成局長兼編成部長	卒業生
	當銘　直美	フリーアナウンサー	卒業生
	金城　敬	学校法人沖縄大学　常務理事	学識経験者
	森田　泰弘	学長補佐（法務監査室 室長）	学識経験者
	金城　正秀	株式会社沖縄銀行 監査部 上席検査役	学識経験者
	宮沢　賢	宮沢財務管理オフィス株式会社　代表取締役	学識経験者
	照屋　正	医療法人涼音会 理事　整形外科てるクリニック事務長	学識経験者
	久高 豊	株式会社石川酒造場　取締役管理部長	学識経験者
	嘉数 美和子	沖縄協栄産業株式会社　代表取締役社長	学識経験者

(2) 役員賠償責任保険契約の状況

１．団体契約者：　日本私立大学協会

２．保険責任期間：　2024 年４月１日～2025 年４月１日

３．記名法人名：　学校法人沖縄大学

４．被保険者

・個人被保険者：　理事・監事、評議員、理事会で選任した管理職従業員（事務局長）

・記名法人：　学校法人沖縄大学

５．補償内容

法律上の損害賠償金、争訟費用、損害賠償請求対応費用、公的調査等対応費用、刑事手続対応費用、財産または地位の保全手続等対応費用、信頼回復広告費用

６．保険期間中総支払限度額：　３億円

７．引受保険会社：　東京海上日動火災保険株式会社

５．設置する学部学科・研究科の名称及び

入学定員・入学者数・収容学生数・専任者数

2024 年 5 月 1 日現在

設置する学校名	学部	学科	入学定員	入学者数	編入学定員	編入学者数	収容学生数		専任者数	
							定員	現員	教員数	職員数
沖縄大学	経法商学部	経法商学科	220	232	5	6	890	1,003	70	56
	人文学部	国際コミュニケーション学科	80	73	3	2	326	314		
		福祉文化学科	120	124	6	7	492	538		
		こども文化学科	50	61	3	1	206	235		
	健康栄養学部	管理栄養学科	80	81	若干名	0	320	321		
	計		550	571	17	16	2,234	2,411		
	大学院	現代沖縄研究科	10	2	―	―	20	4		

Ⅱ. 事業の概要

１.第六次中期計画の重点課題と基本課題を中心とする主要事業

～沖縄大学憲章、長期ビジョンの実現に向けた事業計画～

沖縄大学は 2018 年の 60 周年の節目に、沖縄大学憲章「地域共創・未来共創の大学へ」の実現に向けてどのような取り組みを進めていく必要があるのか検討を行い、憲章を実現するための 10 年間の長期ビジョン『OKIDAI VISION 2028“地域がキャンパス、地域のキャンパス”～沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります～』を打ち出しました。

長期ビジョンの策定にあたっては、沖縄大学憲章の「地域共創・未来共創の大学へ」の 3 つ目標（1. 地球市民・地域市民の共育の拠点　2. 地球環境・地域環境に貢献する教育・研究　3. 共創力を育む大学教育への変革）を具体化した 3 つの将来像（1. 沖縄大学という場　2. 沖縄大学の教育・研究　3. 沖縄大学の学生像）と、社会情勢に合わせた新たな共創に挑戦する将来像（4. 沖縄大学の新たな挑戦）の 4 つのテーマを掲げました。

【沖縄大学憲章】　　【長期ビジョンのテーマ】

・沖大憲章 1. 地球市民・地域市民の共育の拠点・・・・・・1. 沖縄大学という場
・沖大憲章 2. 地球環境・地域環境に貢献する教育・研究・・2. 沖縄大学の教育・研究
・沖大憲章 3. 共創力を育む大学教育への変革・・・・・・・3. 沖縄大学の学生像
・社会情勢に合わせた新たな共創に挑戦する将来像・・・・・4. 沖縄大学の新たな共創への挑戦

～長期ビジョンを実現するための中期計画～

この長期ビジョンを実現するために 5 年間の中期計画を同時に策定しました。中期計画においては、沖縄大学憲章をふまえた長期ビジョンの 4 つのテーマを、沖縄大学の特色を打ち出す「重点課題」としています。一方で、大学の理念に向けて日々努力を積み重ねるだけでなく、それを実現するためにも大学としての基盤を堅実に維持しなければならないというミッションも持っています。そのため、「激変する社会環境に柔軟に対応し得る組織改革と経営基盤の強化」についても、長期ビジョンで取り組むテーマとしています。第四次中長期経営計画で掲げられていた「基本戦略」を引き継ぎ、大学の基盤を固めるために必要な「基本課題」としています。「重点課題」と「基本課題」の各テーマは、第六次中期計画に即した各年度事業計画で計画・実施し、事業の進捗については 4 段階で管理しています。（1.当初の計画以上に進展している。2. おおむね順調に進展している。3.やや遅れている。4.遅れている。）

■「重点課題」・・・長期ビジョンが掲げる「1. 沖大という場」「2. 沖大の教育・研究」「3. 沖大の学生像」「4. 沖大の新たな共創への挑戦」の 4 テーマ
■「基本課題」・・・「Ａ志願者」「Ｂ中退者」「Ｃ社会接続」「Ｄ経営基盤」の 4 テーマ

第六次中期計画の初年度にあたる 2024 年度も学科、研究科、部課局等の部署のレベルにおいて「重点課題」と「基本課題」の両面から計画を立て、事業に取り組みました。

重点課題１．沖大という場　～地球市民・地球市民共育の拠点～

＜執行部＞

・留学生は増えており、ベトナム等の高校訪問活動を計画しました。

＜経法商学部経法商学科＞

・他大学との連携については、演習において、県外の大学等と合同ゼミを開催するなどを行い、学生交流を積極的に行いました。また、学内においても複数のゼミで年に数回合同ゼミ形式で実施することで、学生間交流のほか、幅広い学びの場の提供に努めました。

・一方、資格試験対策室に関しては、学生からの提案等もありましたが、実際に充実強化を図ることはできなかったことは、今後の課題です。

＜人文学部国際コミュニケーション学科＞

・昨年沖大生が中国の福建、敦煌へ訪問したことや、海外への留学も積極的に行われました。中国語、韓国語、日本語スピーチコンテストに参加し、中国語、韓国語スピーチコンテストでいい成績に収めることができました。また、チャンプルフェスタも開催しました。

＜人文学部福祉文化学科（社会福祉専攻）＞

・活動の組織化に向けてリーダーシップをとることができそうな学生がおらず、具体的な活動の開始には至りませんでした。「ふれあいデイサービス」に関しては、本学での活動休止中に他に通所先をみつけた地域住民が多く、再開後の利用ニーズについて関係機関と確認を行う必要があります。

＜人文学部福祉文化学科（健康スポーツ福祉専攻）＞

・地域とつながるための場づくりをするために必要な状況確認や情報収集を行いました。

＜人文学部こども文化学科＞

・カリキュラム体系の再検討を進めていますが、特別支援教育に関する授業についての再検討が遅れています。学科行事への学生の参加は順調に進んでいるものの、ゼミ長会議の活性化に課題があります。現カリュキュラムのもとで取得可能な資格の調査が進んでおらず、キャリア教育調査を更に進めていきます。留学した学生の経験の学生間共有はきちんとなされてきています。

＜健康栄養学部管理栄養学科＞

・本学で実施した栄養改善学会九州・沖縄支部会や、学外で実施したこども食堂などに参加を募りました。

・各教員はゼミや卒業研究等で地域独自の課題や、栄養以外の情報に幅広く学生が接するよう取り組みました。

＜大学院＞

・大学院在学者と修了者を研究活動（研究調査、研究報告等）を通じて連繋を図り、交流を深めることができました。

・大学院在学者に研究フィールドと修了後の活躍の場として、沖縄の地域人材や地域の諸施設を紹介し、地域と有機的に繋いでいく努力は行いましたが、今後も継続していく必要があります。

＜経営企画室＞

・図書館主催の「読書のつどい」が教職員や学生、地域の人々が互いに学ぶ場となるよう活動に参加して支援しました。
・職人倶楽部を３回開催し、学生だけでなく教職員にも参加いただきました。
・島袋ゼミの協力を得て、那覇市、自治会、沖大の三者連携企画「なはユース自治大学」に取り組み、学生と自治会長が共に学び合う場を創出しました。

＜教務＞
・科目等履修制度（単位なし）は、教務委員会で審議した結果、募集を廃止することが承認されました。また、関連する規程改正をおこないました。
・国内派遣協定校は、2024 年度に東京外国語大学と新規締結をし、14 校となりました。また、2024 年度は派遣 2 名、受入 0 名で低調であったため、次年度に向けて国内提携校を訪問し派遣及び受入学生を増やしていきます。

＜国際交流室＞
・英語圏派遣先開拓については情報収集もままならず未実施、2025 年度以降への持ち越し課題となりました。韓国（ソウル以外の地域）で新規１校との提携を締結し、アジア圏の派遣先については基本的に充足しています。
・長期留学について年２回募集の実施を行い留学実現への機会拡大に努めました。派遣人数の上限については、年度内予算にもとづく派遣者数の設定でなく、派遣基準選考にもとづく派遣者数の確保がなされるよう規程の整備を行いました。

＜学生支援課＞
・学生生活支援室の利用者増を受け、カウンセリング枠を増やすこと及びキャンパスソーシャルワーカーを 2 名体制に増員する動き出しができました。
・障がい学生支援規程を制定し、必要な支援を的確に実施する体制を整えました。

＜入試広報室＞
・留学生獲得のためにガイダンスへの参加はできませんでしたが、コロナ過が明けたことで留学生の志願者数は増えました。
・学部学生に大学院研究科のガイダンスを実施しました。

＜地域研究所＞
・公開講座を概ね計画通りに実施しました。（土曜教養講座 5 回、地域研究公開講座 8 回、まーいまーい Naha 連携講座 6 回）。地域研究公開講座では、沖縄大学の特色化を進める全学研究プロジェクトと地域研究所共同研究班による地域研究の活動紹介をオンラインで配信しました。多くの受講者から感想が寄せられ、研究活動へのフィードバックとなりました。

重点課題２．沖大の教育・研究　～地球環境・地域環境に貢献する教育・研究～

＜執行部＞
・アセスメントポリシーの策定やディプロマサプリメントの導入に向けた情報収集を行いましたが具体的な策定までは至りませんでした。教学 IR 委員会については、他大学との合同 IR 研修会を実施できました。ランチョンセミナー形式の FD 研修も実施しましたが参加者が少なかったため、実施方法を検討する必要があります。また、教育の質保証に関する各種アンケート等の経年的な分析や各種規程に示されている基準等（担当コマ数や出欠入力な

ど）の現状を分析は十分に実施できませんでした。

＜経法商学部経法商学科＞

・専門性を維持しつつも、学際的に幅広く学生が主体的に学べる仕組みとして、2024 年度入学生からは、コース選択の際、ゼミ教員の所属コースではないコースを選択することが可能とする仕組みを導入しました。コース選択、ゼミ選択の際、多様な選択を学生が行った様子が見受けられました。

・入学前課題に関しては、充実に向けた検討を実施しましたが、新しい仕組みを導入したとしても高大接続につながるのか不明瞭なこともあり、実際に導入することはできなかったことは、今後の課題です。

＜人文学部国際コミュニケーション学科＞

・日本語においては、那覇市の技能実習生対象機関と交流を行い、多様な学習者への対応力を高めました。韓国済州島が実施した「第 1 回韓オンライン青少年文化交流会議」に参加しました。英語はバスターミナル案内所で流す首里マップを宣伝する英語のデジタルサイネージを制作しました。

・ゼミナール大会やチャンプルフェスタ、語学コーナを通して学生の学習意欲を高めることができました。また、演習や講義で ICT 技術を活用しました。

・「中国語教員教授法研究会」昨年沖大で 2 回開催されました。韓国語能力試験 TOPIK を実施し、沖縄大学県内の韓国語教育の活性化に役立てました。

＜人文学部福祉文化学科（社会福祉専攻）＞

・新カリキュラム移行に対応した体制作りは、おおむね達成できたと考えますが、国内外留学を希望する学生のアンケートは実施していません。ただし、学生が主体的に国際交流室を利用し、春休みの短期留学制度を利用している学生がいました。就職支援課との連携と学習成果の測定方法については、引き続き検討していく必要があります。

＜人文学部福祉文化学科（健康スポーツ福祉専攻）＞

・専攻会議や専攻 FD を開き、検討課題の改善にむけた検討を開始しました。

＜人文学部こども文化学科＞

・在籍生、卒業生を含め、採用試験対策の充実、TA の活用も上手くいっています。ゼミ単位、及び学科全体における、教育実習報告会の運用も順調。今後求められる、文科省や県教育委員会の教育諸施策の課題について、体系的に把握し、学科として共通認識に関しては更に進める必要があります。新課程にあわせたカリキュラムは「プログラミング」の展開が課題です。3，4 年合同ゼミで、卒論中間発表会の実施や、卒論発表会で運営が拡充しています。教職を選択しない学生も含めて、２年次における学修成果の可視化への取り組みには課題があります。

＜健康栄養学部管理栄養学科＞

・学科の教育を、早期から国家試験を意識づけるよう、学科会議・学部教授会議等で周知を続けました。

・国家試験対策を強化しましたが、国家試験の合格率は低迷しています。

＜大学院＞

・各部署において大学院業務の担当者を明確化できるよう検討を重ねましたが、まだ十分とは

言えず、課題提起に止まりました。
・大学院生の来校時間帯にハラスメント相談をできる窓口の設置を提起しましたが、実現には至りませんでした。

＜教務課＞
・2026 年度のシステムリプレイスに係る業者選定を決定しました。2026 年度に向けて業者と打合せを重ね、システム構築をすすめます。

＜地域研究所＞
・2016 年度より「私立大学研究ブランディング事業」で子どもの貧困問題について取り組んできた全学研究プロジェクトは、2022 年度より研究テーマを SDG s に広げ、本学の特色ある研究を推進することを目的に沖縄大学研究プロジェクト推進委員会で選考を行い 3 件の研究プロジェクトが採択されました。また、1988 年の地域研究所設立以来取り組まれてきた地域研究所共同研究班活動は、6 班が地域研究を行いました。
　すべての全学研究プロジェクト班と地域研究所共同研究班の活動を紹介する「地域研究公開講座」を実施しました。

＜図書館＞
・人気映画 DVD を多く購入し、館内での映画視聴ブースの利用が増えました。
・図書館ツアー用に動画を作成しました。また館内を学生が歩いて周りながら解くクイズを行い好評でした。

＜マルチメディア教育研究センター＞
・教務課をはじめとする関連部署との調整の結果、全学部 PC 必携化をスタートしました。

＜教職支援センター＞
・初等現役合格者 29 名（沖縄 27 名・県外 2 名）と中等でも沖縄県（中学社会）で現役合格が 1 人となりました。
・教職関係科目を受け持つ教員に教職 FD として、教職課程の説明を行ない理解を深めることができました。

＜共通科目＞
・共通科目の学習成果を測定するためのアンケートを 2024 年 4 月から 6 月に 2 年次から 4 年次 416 名を対象に実施しました。現状を把握し今後の課題改善に取り組みます。
・過去 10 年の履修状況は未着手の状況。問題発見演習は、各学科より担当教員を選出してもらい、担当者会議を実施し各学科の授業内容を共有しました。

重点課題３．沖大の学生像　～共創力を育む大学教育への変革～

＜執行部＞
・フィールドワーカー育成のため、論理的思考力を養ったり、環境保全への関心を高めたりし、また、学科によっては地域福祉協議会と連携した活動を行いました。

＜経法商学部経法商学科＞
・学内外のプロジェクトの参加状況等の集約等を行うことができなかったことは、今後の課題です。

＜人文学部国際コミュニケーション学科＞

・地域連携の取り組みとして那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha との連繋講座として 7 月と 12 月に各 3 回にわたって市民向け講座を実施しました。
・那覇市議会とのワールドカフェを 10 月に、11 月に那覇市議会での「若者ミライ議会」を実施しました。
・英語に関して、本学が包括連携をしている首里まちづくり研究会の協力のもと、英語で制作した首里マップを首里城復興祭で配布、その他那覇市観光案内所やバスターミナル案内所に設置しました。また、地域の日本語学校の留学生に英語で制作した識名園の案内映像を視聴してもらったほか、識名園にて交流し英語で案内をしました。

＜人文学部福祉文化学科（社会福祉専攻）＞
・福祉的課題のある環境で生育した学生の存在もあり、講義や演習において、学生自身の体験が活かされ、エンパワメントにつながる教育を探求してきました。
・欠席しがちな学生、気になる学生についての情報を演習担当会議等で共有しました。特に、1 年次の問題発見演習に加え、本専攻ではソーシャルワーク演習もあるため初年次の情報は共有しやすくなっています。
・地域で活動をしている教員を中心に、地域での活動に学生をつなげるように工夫をし、実際にさまざまな活動につながる学生が多くいました。
・一方で、特に資格を目指さない学生の動機を維持する方法等が課題となっています。

＜人文学部福祉文化学科（健康スポーツ福祉専攻）＞
・2 年生の基礎演習ではプチ研究を課しており、データを取得している研究が多くありましたが、効果的なグラフ化ができている研究は少なく、データの数値化とグラフ化の必要性が明らかになりました。

＜人文学部こども文化学科＞
・学校ごっこ等の活動の全教員による共有・分担を進めました。それ以外の学外での現場実践の学科全体での共有もできています。フィールドワークを活かした授業実践への学科での予算措置の実施や、ゼミをまたぐ事業の実施も進んでいます。沖縄関連科目の受講者数の確保しつつ、共通科目化して学生への周知も浸透しつつあります。

＜健康栄養学部管理栄養学科＞
・個人の多様なニーズに対応するために必要な、教養および人文科学と連携した科目を新設することについて、学科長同士で意見交換を行った段階です。

＜学生支援課＞
・部活遠征費用の学生自己負担増の状況を受け、遠征先交通費に対する助成制度を設け支援を始めることができました。
・チャレンジ沖大生で南風原高校生との紅型製作及びおさがりプロジェクトの学生自主企画を支援することができました。

＜就職支援課＞
・キャリア担当教員と連携して沖縄県中小企業家同友会が実施する仕事体験イベントに学生の参加を促しました。
・企業説明会やインターンシップ説明会などを実施しました。

＜地域研究所＞

・学生のフィールドワークが活発化するよう、応募のあった琉球弧研究プロジェクト 10 件について費用補助を行いました。また、アネックス共創館においてキックオフミーティング及び成果報告会を開催しました。

重点課題４．沖大の新たな共創への挑戦

＜執行部＞

・教職合同研修会で将来構想を協議、年度末に PT を立ち上げました。

・同窓会長を評議員・後援会長を理事に置くなど連携を強化しました。

・那覇市自治会長会連合会、沖縄大学、那覇市まちづくり協働推進課が連携して取り組んできた「なはユース自治大学」の集大成として、シンポジウムおよび研修会を開催.那覇市議会とのワークショップと模擬議会の開催を行いました。

・ハラスメント防止研修会の開催、相談窓口担当者の周知、窓口担当者向け研修会、外部窓口の設置、個別事案への注意喚起等を行いました。

＜経法商学部経法商学科＞

・具体的な取り組みを学科として集約等することができませんでした。今後の課題です。

＜人文学部国際コミュニケーション学科＞

・英語に関して、本学が包括連携をしている首里まちづくり研究会の協力のもと、英語で制作した首里マップを首里城復興祭で配布、その他那覇市観光案内所やバスターミナル案内所に設置しました。また、地域の日本語学校の留学生に英語で制作した識名園の案内映像を視聴してもらったほか、識名園にて交流し英語で案内をしました。中国語は留置所に中国語の書籍を寄贈、中国からの高校生を国際通りを案内したりするなどの活動をしました。近隣の日本語学校の協力を得て日本語教育実習を実施。地域の教育機関との連携により、実践的な教育力の涵養と地域共創型人材の育成を推進しました。

＜人文学部福祉文化学科（社会福祉専攻）＞

・年度末に福祉文化学会と連携し、福祉文化学科のホームカミングデーを開催しました。50 名をこえる社会福祉専攻卒業生の参加があり、卒業年度が異なる卒業生の縦のつながりの形成、大学と卒業生との連携の契機となりました。

・福祉文化学会の活動の中核になる 2・3 年生の参加が乏しく、活動を活性化させるには至らなかった。サークルに関してもリーダーシップをとる学生が乏しく学生主体の活動へのバックアップのあり方を考えていく必要があります。

＜人文学部福祉文化学科（健康スポーツ福祉専攻）＞

・TA 制度を活用した学年の間の連携の強化について、2 年生に対して、4 年生の一部が卒業研究の中間発表を行い、5 点法のアンケートで効果を検証しました。

＜人文学部こども文化学科＞

・あらたな科目の検討を行い、3 科目を設置しました。開設科目の意義を引き続き検証しつつ、整理を行っています。ゼミ活動報告、卒業生の活動報告、記念講演の充実するために、こども文化学会を運営できています。卒業生への連絡手段の再確認、卒論の紀要への投稿のうながしは、これからの課題です。卒業生の活躍を伝える冊子作製についての検討は遅れているが、卒業生との繋がりは学会参加などで維持しています。

＜健康栄養学部管理栄養学科＞
・県庁の担当者と面談して、相互協力について対話を行いました。
＜総務課＞
・分析の実施（2023 年度）→規程整備（調査）外部相談窓口の設置、学生向け HP からの相談について対応しました。
＜経営企画室＞
・2023 年度外部評価委員会で頂いた意見を全学科・部署で共有して対応策の検討を行い、2024 年度外部評価委員会で対応状況について報告を行いました。
＜学生支援課＞
・保護者懇談会の懇親会に後援会、同窓会の役員を招き、保護者や教職員との交流の場を設けることができました。
・近隣自治会と協力し、沖大祭での出店や体育会での地域清掃活動を実施することができました。
＜地域研究所＞
・那覇市との包括連携協力協定に基づき「子どもの貧困ソーシャルワーク研修事業」及びまーいまーい NAHA との連携講座を開講したほか、前年度に続き那覇市議会との連携事業として、国際コミュニケーション学科の授業で「那覇市の未来共創ワールド・カフェ」及び「那覇市ミライ議会」（模擬議会）を実施しました。

基本課題Ａ「志願者」志願者を十分に獲得し、ＡＰに基づく選抜を実現

＜執行部＞
・志願者数は減ったものの、入学者数 110％を確保できました。
・留学生入学者は増えており、一方でベトナムの高校訪問計画を工夫しました。
・大学院入学者数確保はあまり伸びず、十分な努力ができませんでした。
＜経法商学部経法商学科＞
・学部学科の魅力の発信等については、取り組むことができませんでした。現状、専門性を維持しつつも、学際的に幅広く学生が主体的に学べる仕組みとして、2024 年度入学生からは、コース選択の際、ゼミ教員の所属コースではないコースを選択することが可能とする仕組みを導入しただけにとどまりました。
＜人文学部国際コミュニケーション学科＞
・2025 年度 90 名の新入生を迎えることができ、学科の魅力を社会に伝えることができたと考えられ、当初の計画以上に進展しています。
＜人文学部福祉文化学科（社会福祉専攻）＞
・入試広報室との連携は進めていますが、高校生や保護者へのアンケートは実施していません。また、高校の説明会に在学生の同行も行えていません。
・SNS を活用し、専攻内の取り組みや学生の活動を紹介しました。学生の学外活動の場の提供について、今後も検討を要します。
＜人文学部福祉文化学科（健康スポーツ福祉専攻）＞
・専攻会議や専攻 FD を開き、検討課題の改善にむけた検討を開始しました。

＜人文学部こども文化学科＞

・オープンキャンパスでのゼミによる模擬授業実施は展開しました。入試広報室や経営企画室と連携しつつ、学科行事、教員採用試験対策とその成果の広報はある程度拡充しています。総合型プレゼン入試の導入しつつ。入試改革をにらんでの入試方法の検討の取り組みは進んでおり、大学 HP やオープンキャンパス等を活用して、授業の様子や学科行事などの情報発信を行ないました。

＜健康栄養学部管理栄養学科＞

・2025 年入試から受験科目の変更を行いました。推薦、総合型選抜の動向から、一般選抜は減少が見込まれていたが、昨年の水準を維持することができました。

＜大学院＞

・学内・学外での広報活動を積極的に実施した結果、受験生が前年度より増えました。

＜入試広報地室＞

・県内進学ガイダンスには、積極的に参加しましたが、県外ガイダンスは 1.2 年生向けに大学 PR を目的として九州を中心に参加しました。ガイダンス参加者数は昨年度より約 550 名程増加しました。

・SNS を活用した LINE やインスタグラムによる情報発信は随時行いましたが、学生とのコラボ等、新規の取り組みは出来ませんでした。

基本課題Ｂ「中退者」中退者を出さない教育と学生支援

＜執行部＞

・2023 年度初年度中退率は、依然として高くなっています。

＜経法商学部経法商学科＞

・コースとゼミを主体的に選択できる形に変更にとどまっており、求める学生増を明確に示せている段階ではありません。

・入学後のサポートについては問題発見演習Ⅰの出席や入学前課題等の提出状況などから、支援が必要だと思われる学生を学修支援室につたえました。

・コミュケーションの場の確保に向けた方策等、検討などは行ったが、具体的な取り組みにまでは至りませんでした。

＜人文学部国際コミュニケーション学科＞

・各ゼミで授業内容を工夫し、教員が学生の相談相手になり、学生と面談を行いました。

・前期などゼミに気になる学生がいたら履修相談室に連絡し、また学科内でも情報共有をしました。

＜人文学部福祉文化学科（社会福祉専攻）＞

・中退者への担当教員面談などを行いました。退学理由としては進路変更、メンタル面の問題、その他就学意欲低下、経済的理由などがありました。今後、進路変更や就学意欲低下特にメンタル面の支援が早めにできるよう各ゼミ担当教員及び科目担当教員で個別に対応できるように学生サポートシステムを構築することが課題です。

＜人文学部福祉文化学科（健康スポーツ福祉専攻）＞

・2024 年度入学生を対象に、個人面談を実施し入学に至った経緯などについて調査を実施し

ました。

＜人文学部こども文化学科＞

・毎月の学科会議等、できるだけ多くの機会に、学生の動向について情報を共有しました。学力面の問題を抱えないよう編入の際の基礎学力を確認するとともに、編入後の学生生活の接続をスムーズにするようサポートしています。オリエンテーションや仲間作りの機会も増えており、本学科での初年度教育がスムーズに開始できるよう、学習を支え合えるような人間関係作りを行える機会を設けました。入学前課題の内容を、引き続き検討しつつも、学会等を通じて、小学校現場だけでなく、さまざまな進路選択をしている卒業生の動向を把握することには更に努力が必要です。

＜大学院＞

・留学生やシニア院生のアカデミックスキルの向上を図り、院生間の交流を図りました。

・大学院 TA 等の設置は実現しておらず、シニア院生や留学生等のアカデミックスキルのサポート体制はまだ十分とはいえないことが課題です。

＜経理課＞

・学費納入状況が思わしくない学生の情報共有は随時行っており、今年度は、年度越えは発生しませんでした。

・学費の銀行引き落としについては、業者選定を終え、課長会への説明を行う段階に来ています。

＜教務課＞

・履修相談については、初年次だけではなく、卒業年次の履修指導を拡充する予定でしたが、実施できませんでした。次年度にむけて支援を広げていく予定です。

＜学生支援課＞

・修学支援と学内奨学金を使い分け、より多くの学生が利用できるように応募資格や採用基準を見直しました。

・成績・出席不良による奨学金打ち切りを減らすため、前期終了時点での面談や学修状況のヒアリングを実施しました。

＜図書館＞

・学生生活支援室の紹介で、定期的に学生のレポート相談を行いました。履修相談室にはレポート等困っている学生には案内するよう促しました。

・学生生活支援室が会議で報告するための情報提供などを行いました。

基本課題Ｃ「社会接続」社会と納得できるつながりを創り卒業

＜執行部＞

・各種実習を関係学科において実施した。インターンシップはキャリア関連講義を通じて行うなど、就職支援課においては各種支援を行いました。

・公務員に関しては LEC プログラム（経法商）の実施、就職支援課では公務員奨励金による支援、また福祉や管理栄養においては国家資格対策を行いました。

・教職支援センターにおいては教員採用試験に関する対策講座や各種支援を行いました。

＜経法商学部経法商学科＞

・就職支援課との具体的な連携した取り組みは行えませんでしたが、公務員試験対策講座については、就職に向けた必要な分野を授業している講義もあるので、民間企業への就職を希望している学生も登録しやすいよう、科目名等の変更を行いました。

＜人文学部国際コミュニケーション学科＞

・教職関連では、1 人が 1 次試験を現役で通過、2 人の卒業生がそれぞれ中学校と高等学校の採用試験に合格しました。

＜人文学部福祉文化学科（社会福祉専攻）＞

・「社会福祉士及び精神保健福祉士国家資格の受験資格取得モデル」以外に、民間企業就職希望で「卒業のみを目指す履修モデル」と、公務員を目指す「公務員試験対策モデル」、三つの履修モデルを作成し、学生に対して履修ガイダンスを行いました。また、そのカリキュラムの充実を図るため、他学科から多文化関連科目と平和関連科目を提供してもらい設置しました。

＜人文学部福祉文化学科（健康スポーツ福祉専攻）＞

・これまで結ばれていた協定について整理をしました。

＜人文学部こども文化学科＞

・従来どおり、過卒者も対象とした対策講座を実施しました。地域で活躍するこども文化学科卒業生教員の情報を整理、共有することが遅れています。また、個別の教員が負担過重とならないよう、事業の分担、引き継ぎ等行っていますが、そこでの知を、また学校現場に還す仕組みは改善の余地があります。

＜健康栄養学部管理栄養学科＞

・ゼミごとで就職活動状況を把握できる仕組み構築について実施、学科会議等で不定期に情報共有をしました。

＜就職支援課＞

・就職支援委員会やゼミ教員と連携しながら調査を行いました。

・企業との接点を通じて双方の情報を共有し学生支援につなげました。

基本課題Ｄ「大学運営・経営基盤」激変する社会環境に柔軟に対応し得る組織改革と経営基盤の強化

【大学運営・経営基盤】

＜執行部＞

・中計の進捗管理と点検・評価の負担軽減は適宜適切に行われました。自己点検評価Ⅲについても Ⅱ同様に各年点検評価するよう見直しをしました。

＜大学院＞

・研究科委員会の効率的な開催方法を検討し、問題なく実施できた。

・大学院担当科目と学部担当科目との均衡について検討したものの、解決には至っていません。

＜総務課＞

・裁量労働制、補助金（教育の質）、科研費獲得（　　）、危機管理対応の整備現状維持
職位別 SD 研修、職位別研修を実施（すべての職位でメンタルヘルス対策を実施）

・人事評価制度の見直し　導入へ向けて検討中

＜経営企画室＞

・第五次中計の点検・評価をふまえ、第六次中計の計画・報告記入シートを改善しました。

・e-no「Very ウッチン石けん」を新たな寄附返礼品に加え、返礼品を 6 種類にし、学園祭や卒業式等で寄附返礼品の PR 活動を行ったが寄附金増加にはつながっていません。

・教学 IR 委員会が教学マネジメント委員会からデータ収集の依頼や分析の指示を受ける体制に見直す教務部長提案が承認され、教学 IR 委員会の構成員や教学 IR 委員会が連携・調整する委員会の改正を行いました。

＜経理課＞

・徴収担当者のマニュアルを作成しました。

・四半期ごとの予算の執行状況や、決算見込み状況説明を資金運用会議で行っています。

＜施設課＞

・2 号館と 4 号館渡り廊下については建築確認申請に必要な国場キャンパス全体測量費用が必要となったことから 2026 年度の予算計上を検討しましたが、予算編成の方針でこの事業は凍結することとなりました。

＜地域研究所＞

・2020 年度より「沖縄大学環境に関するアンケート調査」を継続的に実施しており、「エコ・キャンパス宣言」の浸透度合いを検証しています。調査結果は『沖縄大学環境レポート』に掲載し、雨水や中水の利用、省エネ・省資源等の取り組みとともに公表しています。

＜情報システム管理室＞

・全学基幹ネットワーク更改事業は施設整備補助金（ICT 活用推進事業）の採択を受けて、補助金を獲得し、大きな問題も無く完了しました。

・学内 DX 推進を目的として、ワークフローシステムを導入しました。年休申請から開始し、他部署での活用も徐々に進んでいます。

【その他取り組み】

＜施設課＞

・施設劣化調査計画に基づき、3 号館、アネックス共創館及びアネックス共創館敷地の劣化調査と安全点検を実施し、緊急性の高かった指摘箇所について修繕を行いました。

＜経営企画室＞

・内部質保証推進組織については、教学 IR 委員会の位置付けと実質化という面で教務課と意見交換を行い、委員会規程の改正等、改善に向けた対応を行いました。今後、入試広報室、教務課、学生支援課、就職支援課、経営企画室が連携し、データの収集・分析を行う体制が整いつつあります。

２．地域連携・地域貢献事業

(1) 地域研究

沖縄大学では、研究者個人の研究のほか、全学的な全学研究プロジェクトや地域研究所の共同研究班活動に取り組んでいます。

地域研究所は、地域の課題に対し学内所員が学際的研究に取り組むことを本務に 1988 年に設立されました。現場に根ざした学外の研究者に地域研究所の活動に参加していただく委嘱研究員制度を設け、2024 年度は 66 人の方々に特別研究員を担っていただきました。

① 全学研究プロジェクト

地域共創・未来共創の大学理念を具体化する全学的な地域研究を推進し、大学の特色化を強め、沖縄大学が地域と共にある大学として発展する礎とすることを目的に実施しています。

＜2024 年度＞

年目	研究名	概要	構成員（★代表）	
			学内教員	その他
3	島コショウの伝統的な栽培・利用方法とその食品機能を活かした商品開発	沖縄で長年愛用されているピィパーズについて、伝統的な栽培・利用方法を学術的・体系的に総括し、最高な芳香を引き出す標準的な製法の確立と生理機能の評価に取り組み、地域団体と協力しその良さを活かした商品を開発する。	★宮良恵美 酒井由希子 盛口 満	新垣 慶子 外間 杏花 山門 健一 後藤 哲志 沖縄県ピィパーズ生産推進協議会
2	沖縄大学「いのちの未来の平和学」プロジェクト	2022 年 2 月末のウクライナ戦争から始まった国際秩序の揺らぎもあり、沖縄大学が「平和と反戦」を強く発信していくような流れを作っていき、〈学び舎〉として平和教育を実践してくことを目的としている。沖縄大学の有志が集まって月一回のペースで地域市民の方々にも門戸を広げ、「戦争と平和」「人類と人権」「非暴力と自由」「差別と不寛容」「本当の意味での SDGｓ」などについてのフォーラムやワークショップを企画運営して、沖縄大学から「平和と反戦」の実践活動を発信していく。	★西 章 山代 寛 須藤 義人	浜川智久仁 兼島 徹
1	沖縄県の臓器移植に関する法・政策・倫理―より多くの命を救うために―	移植でしか救命出来ない命を救うための臓器提供が十分ではない現状に鑑み、献腎移植全国１位となったことのある沖縄県での臓器提供推進の取り組みを分析し、政策提言を行うことで、よりよい医療環境の構築を目指す。	★富山侑美 吉川麻衣子 島田 尚徳	－

② 地域研究所共同研究

琉球弧及びアジア地域の社会・文化・自然環境等に関する調査・研究を行うことにより、優れた研究成果を創出し、地域社会に役立てられることを目的に実施しています。

＜2024 年度＞

年目	研究名	概要	共同研究者（★代表）	
			所員	特別研究員
3	沖縄県を中心にした「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる総合的研究	沖縄本島および離島をベースにしながら、様々な災害概念を対象として幅広く地域研究を行い、「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる文理融合の学際的・総合的研究を進めていく。	★糸数 哲 國仲 小織	春田吉備彦 河合 塁 稲垣 暁
3	沖縄県、離島における中国語標識・案内板確認について	沖縄県内外、離島における中国語、英語標識・案内板について調査し、間違っていた中国語や英語を訂正する。	★王 志英 圓田 浩二 クリストファー・ブラッドリー	泉川 友樹
2	沖縄における地域史とオーラルヒストリーの方法 ―戦後史研究の実践から問い直す―	沖縄戦後史研究では、オーラルヒストリーの方法と実践に対する学術的検証は未だ十分とは言い難い。本研究では、オーラルヒストリーの実践を通じて研究史を再検証しつつ、地域史の新たな方法を探究する。	★若林千代 我部 聖	謝花 直美 親川 裕子 居原田 遙
1	沖縄の地域産業を牽引する企業におけるブランド志向の実践とアクションリサーチ	本研究は、ブランド・アイデンティティの「共創」を中心に据えたコーポレート・ブランディングの実践を行う沖縄県内の企業を対象とし、市場志向からブランド志向への変革と実践へ向けての一連のプロセスを考察する。	★豊川明佳 崔 珉寧	玉城 綾乃
1	離島における教育連携	地理的に不利な離島地域と大学機能（大学生による出前授業と地域交流）を連携することにより、「離島における教育機会」の課題を整理し、同時に大学機関で今後どのように地域と連携できるか模索する。	★盛口 満 喜屋武政勝 上原 周子	後藤 亜樹
1	琉球・沖縄共同体の源流と変遷の研究	現在に直接つながる琉球・沖縄の「共同体」は農耕が始まった 12 世紀から 15 世紀のグスク時代に始まると言われている。その起源と変遷（特に近世と近代）を考古学と歴史学と社会学の視点から明らかにする。	★宮城能彦	賀数 仁然 武部 拓磨

(2) 地域研究活動の経過・成果

地域研究活動の経過や成果を発表し、地域にも研究活動にもフィードバックが得られるような取り組みを目指しています。

① 地域研究公開講座

地域共創・未来共創を謳う本学の特色化に取り組む地域研究（沖縄大学全学研究プロジェクト）や地域課題に取り組む地域研究（地域研究所共同研究）を学内外に紹介しています。沖縄大学憲章にある「地球市民・地域市民の共育」「地球環境・地域環境に貢献する教育研究」「共創力を育む大学教育への変革」に資する地域貢献活動となるよう本学の地域研究活動をより地域に開かれたものとしていくことを目的に実施しています。

＜2024 年度＞

	開催日時	講座名	研究代表者 （所属学科）	視聴者
1	7/10（水） 13:00-14:20	沖縄県、離島における中国語標識・案内板確認について	王 志英 （国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科）	12 名
2	8/26（月） 16:00-17:30	自然災害時の労働問題と災害時非常食の備え	糸数 哲 （経法商学科）	14 名
3	9/13（金） 17:00-18:30	沖縄から「非戦」を考える	西 章 （福祉文化学科）	25 名
4	11/20(水) 15:00-16:00	離島のこどもたちと教育	盛口 満 （こども文化学科）	21 名
5	12/4（水） 16:00-17:00	オーラル・ヒストリーを通じて沖縄現代史を学ぶ	若林 千代 （経法商学科）	36 名
6	1/16(木) 14:40-16:10	島コショウの伝統的な栽培・利用方法とその食品機能を活かした商品開発	宮良 恵美 （管理栄養学科）	24 名
7	1/22(水) 16:30-17:30	沖縄県における臓器提供に関する家族の同意・意思について考える	富山 侑美 （経法商学科）	24 名
8	2/15(土) 18:00-19:30	奄美と喜界島のグスク	宮城 能彦 （管理栄養学科）	78 名

② 発行物

・ 地域研究所紀要『地域研究』第 32 号

地域研究所の所員及び特別研究員が地域研究活動の経過や成果を発表する紀要を発行しています。2024 年度は第 32 号を発行し、論文 2 編、研究ノート 3 報、実践研究報告 1 報を掲載しました。

・ 彙報第 13 号『琉球列島の里山－記憶の記録－ (2)』盛口満著

琉球列島の島々のお年寄りから往時の人里周辺の自然環境や人々の自然利用につい

ての聞き取りをまとめたもの。彙報第 12 号『琉球列島の里山－記憶の記録－』の続編。

(3) 地域共創

沖縄大学の理念「地域共創・未来共創の大学へ」に向けて、学部生・院生のフィールドワークや地域に開かれた土曜教養講座、自治体等との連繋事業を推進しています。

① 琉球弧研究支援プロジェクト

「地域共創・未来共創」に取り組む学部生や院生を応援する試みとして、琉球弧をフィールドとした研究や実践活動を推進しています。教員のアドバイスと活動費の補助を行っています。

＜2024 年度＞

	研究･実践テーマ	代表者	学科	指導教員
1	琉球紅型衣装の魅力・歴史 ～紅型染の実体験を通して～	仲間 功也	経法商学科 (4 年次)	島袋 隆志
2	戦争で変化した食文化 ～同じ地上戦を経験している沖縄と韓国～	金城 穂乃花	国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 学科(3 年次)	洪　玩伸
3	沖縄音楽のポップカルチャー ～沖縄若者たちのストリート音楽にみる沖縄文化の力～	丸井 賢人	国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 学科(3 年次)	
4	沖縄そばの歴史と継承 ～沖縄そばの麺や具材に秘める想い～	平良 妃代莉	国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 学科(3 年次)	
5	沖縄県でハンセン病と闘う人たち ～宮古島と名護市の比較を中心に～	相馬 啓佑	国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 学科(3 年次)	
6	沖縄の青少年における貧困と非行・暴力の関わりについて	中塚 静樹	国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 学科(3 年次)	
7	小学生の学びと遊びに関する意識の比較調査研究 ～那覇市と近海離島における生徒の現状調査～	宇良 文海	こども文化学科 (2 年次)	須藤 義人
8	離島の子どもたちへの大学生による授業支援から見えてくるもの	鷲山 壽一	こども文化学科 (3 年次)	盛口　満
9	地域食材を軸とした子どもへの食育	古堅 笑江	管理栄養学科 (1 年次)	國本あゆみ
10	那覇とやんばるの超高齢者の食 ～野菜・野草、豆類の利用について～	幸地 沙弥奈	管理栄養学科 (4 年次)	荒木 裕子

② 土曜教養講座

1976 年に開講した土曜教養講座は 2024 年度で 49 年目を迎えました。

本講座は、主に学内教員・職員からの発案で実施されるもので、沖縄の様々な課題の中から時宜に適うテーマで講演会やシンポジウムを開催し、また沖縄大学の地域研究の成果を市民に広く発表する場とさせていただいています。

＜2024 年度＞

	開催日時	内容	受講者
1	6 月 1 日 （土） 13:30- 16:30	第 604 回土曜教養講座 地域の未来を拓く ～沖縄で考える地域の大学の意義と東アジアの平和～ 【司会】 髙良沙哉（沖縄大学地域研究所副所長／人文学部福祉文化学科教授） 【講師】 姜尚中（東京大学名誉教授） 山代寛（沖縄大学学長）	119 名
2	6 月 15 日 （土） 14:00- 17:00	第 605 回土曜教養講座 ぬちどぅ宝のケア ～生きる力を育むスピリチュアルケア～ 【司会】 安次嶺勲（沖縄スピリチュアルケア研究会事務局長） 【講師】 玉置妙憂（大慈学苑代表、看護師、尼僧）、宮麻衣（元訪問・緩和ケア認定看護師） 今村昌幹（「ぬちぐすい診療所」主宰、日本ホスピス在宅ケア研究会会員） 大下大圓（沖縄大学客員教授、日本スピリチュアルケア学会理事） 崎浜盛康（琉球大学名誉教授、沖縄スピリチュアルケア研究会会長）	182 名
3	9 月 7 日 （土） 14:30- 16:30	第 606 回土曜教養講座 米兵事件はなぜ隠されたのか ～見えない壁の正体～ 【司会】 黒島美奈子（JCJ 沖縄(日本ジャーナリスト会議沖縄)世話人、沖縄タイムス論説副委員長） 【講師】 金城正洋（JCJ 沖縄(日本ジャーナリスト会議沖縄)世話人、八重山毎日新聞を経て琉球朝日放送（QAB）入社。報道部デスクを歴任し７月退社。）	231 名

		青木理（ジャーナリスト。ノンフィクション作家。共同通信社に入社、東京社会部、外信部などを経てフリー。著書に「日本の公安警察」「国策捜査」など。）	
4	11月30日（土）13:30-16:30	第607回土曜教養講座 沖縄の子どもの貧困対策の到達点とこれから ～10年目に向けて私たちが取り組むべきこと～ 【司会】 島村聡（沖縄大学地域研究所長／人文学部教授） 【講師】 島尻愛伊子（衆議院議員／元沖縄・北方担当大臣） 占部亮（内閣府沖縄振興局総務課事業推進室長） 岡田朝子（南風原町こども課） 津嘉山拡大（（株）associa） 金城隆一（NPO法人ちゅらゆい） 山下千裕（一般社団法人くじら寺子屋） 榊原千夏（沖縄県こども未来統括監）	154名
5	2月1日（土）13:30-16:00	第608回土曜教養講座 沖縄県内における企業ブランド構築の現在地 ～先駆事例からの取り組みを中心に～ 【司会】 豊川明佳（沖縄大学経法商学部教授） 【講師】 西野諭（東急株式会社 社長室 広報グループ広報企画 担当課長） 廣瀬哲郎（株式会社りゅうせき 経営管理部 経営企画担当 次長） 玉城綾乃（金秀ホールディングス株式会社 総務本部広報課 課長）	61名

③ 那覇市との連携事業

・ 那覇市人材育成支援センターまーいまーいNaha・沖縄大学連携講座

2020年に開館した那覇市人材育成支援センターまーいまーいNahaは、沖縄の観光振興などに携わる人材の育成や、市民の学習・交流活動を支援することを目的に活動しています。人材育成事業では、国際化などの社会情勢に柔軟に対応できる人材の育成を目的に各種講座を開講しており、その一環で本学との連携講座を実施しています。

＜2024年度＞

	開催日時	内容
1	7月10日(水) 18:30-20:00	シリーズ：グローバル社会における国際コミュニケーション ① 国際コミュニケーション…その先にあるもの 【講師】 伊藤 丈志 （沖縄大学国際コミュニケーション学科 准教授）

2	7 月 17 日(水) 18:30-20:00	シリーズ：グローバル社会における国際コミュニケーション ②　英語 TV コマーシャルから異文化社会を考える 【講師】　伊藤 丈志 （沖縄大学国際コミュニケーション学科　准教授）
3	7 月 24 日(水) 18:30-20:00	シリーズ：グローバル社会における国際コミュニケーション ③令和の留学事情 【講師】　伊藤 丈志 （沖縄大学国際コミュニケーション学科　准教授）
4	12 月 5 日(木) 19:00-20:30	シリーズ：異文化を学ぶ ①フランスのココが面白い 【講師】　金城 豪氏（沖縄大学非常勤講師）
5	12 月 12 日 (木) 19:00-20:30	シリーズ：異文化を学ぶ ②ドイツ文化の魅力 【講師】　西 章氏（沖縄大学福祉文化学科准教授）
6	12 月 19 日 (木) 19:00-20:30	シリーズ：異文化を学ぶ ③意外と知られてない英語発祥の国 【講師】　伊藤 丈志（沖縄大学国際コミュニケーション学科　准教授）

・ 那覇市議会との連携事業

那覇市議会と沖縄大学は、市民に開かれ地域の多様な主体と協働して未来の共創を目指すという共通理念をふまえ、2023 年に包括的に連携協力を図る協定を結びました。

本協定に基づき、10 月 16 日（水）に「那覇市の未来共創ワールド・カフェ～学生&議員・教員～」を開催しました。国際コミュニケーション学科 1 年次の問題発見演習で、５つのテーマ（文化・芸術、健康行政、教育行政、観光行政、まちづくり）で 10 グループに分かれ、那覇市の抱える問題や改善案などを話し合いました。

また、上記ワークショップを経て、11 月 9 日（土）に「那覇市若者ミライ議会」（那覇市議会議場での模擬議会）を実施しました。

④　近隣自治体との連携事業

・ 子どもの貧困ソーシャルワーク研修事業

那覇市、豊見城市及び糸満市と沖縄大学が協力し、子どもの貧困対策に取り組む支援員や居場所職員等がその職能を習得する研修委託事業を 10 回実施しました。

・ 南部広域市町村圏事務組合広域研修事業

沖縄県南部圏域における広域的な政策課題等に取り組む人材を育成する研修委託事業を実施しました。

（4）「出前講座・体験授業」の実施

沖縄大学では、地域貢献の一環として多様な学習機会の一助となるよう、小学校・中学校・高校への「出前講座・体験授業」の実施をしています。

「出前講座・出前授業」（小学生・中学生・高校生向け講座）　　開催講座数：26 講座

	開催日	実施高校	講座名	担当講師
1	6 月 4 日	首里東高等学校	目標を達成するにはコツがある	石原端子
2	6 月 21 日	東風平中学校	沖縄戦から何を学ぶか？	宮城能彦
3	6 月 28 日	陽明高校	SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）を体験しよう	名城健二
4	7 月 4 日	沖縄市立島袋小学校	知ってびっくりタバコの真実	山代　寛
5	7 月 16 日	南風原高校	世界史のなかの戦争と沖縄	若林千代
6	7 月 23 日	宜野座高校	自分探しはやめよう	宮城能彦
7	7 月 23 日	宜野座高校	何のために進学するのか	宮城能彦
8	7 月 26 日	宜野座高校	世界の言語事情	伊藤丈志
9	7 月 26 日	宜野座高校	世界の英語事情 1	伊藤丈志
10	7 月 26 日	宜野座高校	世界の英語事情 2	伊藤丈志
11	7 月 26 日	首里東高等学校	幸せってなんだ？	樋口耕太郎
12	10 月 1 日	糸満高校	何のために働くの？	宮城能彦
13	10 月 4 日	普天間高校	沖縄の歴史・文化入門	宮城能彦
14	10 月 16 日	中部農林高校	Verval and Nonverval Communication 見た目はそんなに大事？	末吉綾乃
15	10 月 30 日	南風原高校	ワーク＆ライフ・バランスとは何か	島袋隆志
16	11 月 13 日	北中城高校	18 歳までに知っておきたい法学	髙良沙哉
17	11 月 19 日	南風原高校	国際コミュニケーションって何？	伊藤丈志
18	12 月 17 日	西崎小学校	知ってびっくりタバコの真実	山代　寛
19	12 月 19 日	八重山高校	自分探しはやめよう	宮城能彦
20	1 月 17 日	中部農林高校	ワーク＆ライフ・バランスとは何か	島袋隆志
21	1 月 24 日	読谷高校	Verval and Nonverval Communication 見た目はそんなに大事？	末吉綾乃
22	1 月 27 日	具志川商業高校	ライフデザイン	小野啓子
23	2 月 4 日	八重山高校	18 歳までに知っておきたい法学	髙良沙哉
24	2 月 4 日	読谷高校	性の多様性ってなんだろう？	吉川麻衣子
25	2 月 5 日	安岡中学校	ストレスとの上手い付き合い方	名城健二
26	2 月 5 日	読谷高校	18 歳までに知っておきたい法学	髙良沙哉

（５）地域住民への図書の貸し出し

地域住民が利用する公共図書館に目的の資料がなく、その資料が沖縄大学図書館にある場合、公共図書館を通じて地域住民への資料の貸し出しを行っています。

2024 年実績

	依頼日	依頼館
1	4 月 12 日	沖縄県立図書館
2	4 月 19 日	豊中市立岡町図書館
3	6 月 5 日	石垣市立図書館
4	6 月 28 日	沖縄県立図書館
5	7 月 8 日	沖縄県立図書館
6	8 月 23 日	恩納村文化情報センター
7	10 月 18 日	宮古島市立図書館
8	12 月 10 日	護佐丸歴史資料図書館
9	1 月 6 日	沖縄県立図書館
10	1 月 17 日	石垣市立図書館

（６）学外者の図書館利用

2024 年度は図書館を利用した学外者は、年間を通じて 124 名の利用がありました。また学外利用者の問い合わせに応じ、図書の照会や検索をしたのは 19 件でした。

（７）講師の派遣

沖縄大学では、教員を自治体等へ委嘱委員、講師として派遣しています。政策形成への寄与、知の還元等により地域社会への貢献を行っています。

2024 年度　学外委員・講師等の派遣数

学科	教員数	派遣教員数	単発派遣	中・長期派遣	合計
経法商学科	23	13	4	22	26
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	11	3	5	1	6
福祉文化学科	16	8	36	16	52
こども文化学科	9	6	14	6	20
管理栄養学科（助手）	19	9	10	14	24
その他（職員等）		5	4	2	6
合計	78	44	73	61	134

※単発派遣・・・1 回のみの講師派遣

※中・長期派遣・・・1 年未満～1 年以上の派遣

３．学生活動の実績

（１）クラブ活動・ゼミ活動等の実績

競技名・団体名	日付	大会
野球部	4月6日～5月6日	第111回九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会沖縄地区予選　第4位　＜表彰選手＞[新人賞] 田場盛士、[ベストナイン賞]三塁手　宮里生真
	6月15日～23日	第26回沖縄県大学野球フレッシュリーグ　準優勝
	8月31日～9月22日	第112回九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会　沖縄地区予選　準優勝 ＜表彰選手＞[敢闘賞]知念新、[打撃賞]1位　宮里生真、2位　野里悠介、[打点賞]仲本雄太、[最多盗塁賞]山城俊也、[最多勝利投手賞]仲宗根匠、[新人賞]山城樹、[ベストナイン賞]投手　仲宗根匠、三塁手　野里悠介、外野手　中村圭太
	10月17日～19日	第112回 九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会 決勝トーナメント（熊本大会）　準々決勝出場
	11月16日～18日	第13回九州地区大学野球連盟新人戦決勝トーナメント　出場
空手道部	4月29日	第48回沖縄県学生空手道選手権大会　男子個人形　3位決定戦進出（新城将矢、眞喜志康ノ介）、男子個人組手　2位（新城将矢）、3位（松田五吹、新里條）、ベスト8（當銘琉粋）、女子個人形　出場（下門未幸、本村優利花）、女子個人組手　3位（本村優利花）
	5月12日	第61回全九州大学空手道選手権大会　男子個人形 出場（新城将矢、眞喜志康ノ介）、男子個人組手（65㎏未満軽量級） 出場（大城謙斗、新里條）、男子個人組手（65以上～75㎏未満中量級） 出場（新城将矢）、ベスト16（當銘琉粋）、女子個人形 出場（本村優利花、下門未幸）、女子組手（55㎏未満） 出場（本村優利花）
	5月26日	第61回西日本大学空手道選手権大会　男子団体組手 2回戦進出（松田五吹、新里條、當銘琉粋、大城謙斗、新城将矢）
	7月6日～7日	第68回全日本学生空手道選手権大会 DivisionⅡ　男子個人組手 2回戦進出（新里條、大城謙斗、當銘琉粋）
	10月20日	第73回全九州大学空手道選手権大会＆第2回九州学生空手道選手権大会 DivisionⅡ 団体形 3位（平安名翔太、眞喜志康ノ介、新城将矢）、団体組手 3位（松田五吹、新里條、當銘琉粋、大城謙斗、新城将矢）
	11月17日	第68回全日本大学空手道選手権大会　団体形 予選ラウンド出場（平安名翔太、眞喜志康ノ介、新城将矢）、団体組手 2回戦出場（松田五吹、新里條、當銘琉粋、大城謙斗、新城将矢）
サッカー部	4月14日～5月18日	第48回九州大学サッカートーナメント大会（予選）　予選2位により本戦出場権獲得
	6月8日～11月16日	第39回九州大学サッカーリーグ（2部）　9位　優秀選手賞：金城来偉
	5月11日～2025年1月26日	OFA第22回沖縄県学生サッカーリーグ　4位
	2025年2月8日～11日	OFA第45回沖縄県大学サッカー新人大会　3位
	9月9日～14日	OFA第21回沖縄県学生サッカーリーグ　優勝

	2025年2月23日～3月2日	タイムス杯争奪OFA第30回沖縄県サッカー選手権大会　出場
水球部	7月20日	第100回日本学生選手権水泳競技大会（水球競技）九州地区予選会　優勝 全国大会派遣決定
	8月25日～8月30日	第100回 日本学生選手権水泳競技大会　出場
女子サッカー部	6月9日～2025年1月26日 7月26日～27日 10月26日	KBC学園杯争奪OFA沖縄県女子サッカーリーグ2024　優勝 沖電工杯OFA第57回沖縄県サッカー祭りD組・女子の部　準決勝敗退 第33回九州大学女子サッカー選手権大会　出場
陸上競技部	4月27日～28日	第36回海邦国体記念競技会　男子100m　1位　座間味凜玖、2位　長濱瑠希斗、4位　赤嶺翔、男子300m　1位　赤嶺翔、3位　伊波諒哉、7位　伊波慧哉、20位　儀保賀丸、男子4×100mR　1位　伊波颯、長濱瑠希斗、赤嶺翔、橋口翔、男子4×400mR　1位　伊波慧哉、伊波諒哉、儀保賀丸、赤嶺翔、男子1500m　3位　八木結、10位　仲程太陽、男子5000m　2位　八木結、男子やり投　4位　砂川桜介、女子100m　3位　上地愛花、6位　長嶺涼風、女子4×100mR　1位　伊野波美織、上地愛花、長嶺涼風、大底桃花、女子4×400mR　1位　伊野波美織、上地愛花、長嶺涼風、大底桃花、女子走り幅跳び7位　古堅希颯、女子1500m　3位　平賀麗奈、女子走り高跳び　1位　金城志桜里
	5月10日～12日	第94回九州学生陸上競技対校選手権大会　男子4×100mR　3位　座間味凜玖、長濱瑠希斗、赤嶺翔、伊波颯、男子100m　5位　座間味凜玖、6位　赤嶺翔、男子200m　6位　赤嶺翔、女子3000mSC　1位　平賀麗奈、女子1500m　6位　平賀麗奈
	5月11日～12日	第75回沖縄陸上競技選手権大会兼国体選考会　男子400m　1位　伊波諒哉、男子1500m　5位　八木結、男子4×400mR　2位　儀保賀丸、伊波慧哉、阿波根宏哉、伊波諒哉、男子やり投げ　6位　上地富美也、女子100m　2位　上地愛花、4位　長嶺涼風、女子200m　2位　上地愛花、4位　長嶺涼風、女子400m　1位　伊野波美織、女子4×100mR　1位　伊野波美織、上地愛花、長嶺涼風、大底桃花、女子走高跳　2位　大底桃花
	7月13日～14日	第77回国民体育大会陸上競技選考会　男子100m　3位　長濱瑠希斗、4位　赤嶺翔、男子300m　1位　赤嶺翔、2位　伊波諒哉、4位　伊波慧哉、男子走幅跳　3位　伊波颯、男子三段跳　4位　伊波颯、男子やり投　5位　上地富美也、女子100m　1位　長嶺涼風、女子高跳　1位　大底桃花、2位　金城志桜里、女子走幅跳　1位　石原麻里奈、5位　古堅希颯
	8月23日～25日	第79回九州陸上選手権大会　男子4×100mR　1位　古謝開仁、長濱瑠希斗、赤嶺翔、伊波颯、男子4×400mR　6位　伊波慧哉、伊波諒哉、奥山和磨、赤嶺翔
	9月27日～29日	第52回九州学生陸上競技選手権大会　男子100m　4位　古謝開仁、男子200m　6位　赤嶺翔、男子1500m　8位　仲程太陽、女子1500m　3位　平賀麗奈、女子3000mSC　1位　平賀麗奈、女子4×100mR　5位　長嶺涼風、上地愛花、阿波根美笑、古堅希颯
	10月26日～27日	第9回九州学生陸上競技新人選手権大会　男子4×100m　2位　橋口翔、奥山和磨、赤嶺翔、伊波颯、男子100m　6位　赤嶺翔　7位　奥山和磨、男子

		200m　5位　奥山和磨　7位　赤嶺翔、男子400m　5位　伊波諒哉　6位　伊波慧哉、女子走高跳　5位　金城志桜里、女子走幅跳　8位　古堅希颯
	2025/1/12	皇后杯第43回都道府県対抗駅伝競走大会　出場　平賀麗奈
男子バスケットボール部	5月3日～12日	第29回全九州大学春季バスケットボール選手権大会　出場
	5月11日～19日	2024年度 沖縄県社会人バスケットボール大会（天皇杯社会人代表決定戦）出場
	6月15日～22日	第32回沖縄県大学バスケットボール選手権大会　優勝
	13日～14日	第100回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会沖縄代表決定戦　4位
	9月14日～10月6日	第31回全九州大学バスケットボールリーグ戦　4位
	12月14日～15日	第33回沖縄県大学バスケットボール選手権大会　準優勝
女子バスケットボール部	5月11日～19日	2024年度 沖縄県社会人バスケットボール大会（天皇杯社会人代表決定戦）出場
	6月15日～22日	第32回沖縄県大学バスケットボール選手権大会　3位
	9月14日～10月6日	第31回全九州大学バスケットボールリーグ戦　4位
	12月14日～15日	第33回沖縄県大学バスケットボール選手権大会　3位
男子バレーボール部	4月28日	平安杯兼令和6年度国民スポーツ大会成年男女6人制バレーボール競技 沖縄県代表選手選考会　出場
	5月4日	令和6年度沖縄県大学バレーボール春季大会　準優勝
	5月24日～26日	令和6年度九州大学春季バレーボール男子チャレンジマッチ　鹿児島大会ベスト8
	6月29日	令和6年度天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 沖縄県ラウンド出場
	10月5日	令和6年度沖縄県大学バレーボール秋季大会　4位
	10月18日	2024年度九州大学秋季バレーボール男子チャレンジマッチ沖縄大会　出場
女子バレーボール部	5月4日	令和6年度沖縄県大学バレーボール春季大会　優勝
	5月16日～20日	令和6年度九州大学春季バレーボール女子チャレンジマッチ　宮崎大会　出場
	10月5日	令和6年度沖縄県大学バレーボール秋季大会　準優勝
	10月25日～26日	令和6年度九州大学秋季バレーボール女子チャレンジマッチ大分大会　第3位
軟式野球部	5月11日～25日	2024年度沖縄県春季リーグ戦　準優勝
	6月8日～9日	2024年度国際交流事業　全日本代表選手選考会（2次選考）　2024年全日本代表選出：國吉翔太
	9月28日～10月10日	沖縄県大学軟式野球　秋リーグ　優勝　全国大会派遣決定
	11月12日～14日	第47回全国大学軟式野球選手権大会　出場
吹奏楽部	7月13日	第5回しあわせのバトンチャリティーコンサート 参加
	11月9日	リレー・フォー・ライフ・ジャパンおきなわ2024　開会式参加
	12月15日	第49回沖縄県アンサンブルコンテスト　銅賞
なぎなた部	8月11日	第63回全日本学生なぎなた選手権大会　個人の部　泉水ほのか　3位

フットサルサークル	6月16日～2025年3月23日	OFA第23回沖縄県フットサルリーグ2024　3位
渋谷ゼミ	7月14日	Young Business Masterminds（YBM）コンテスト　準決勝敗退
古波藏好太郎（21C039）	11月9日	「地方の時代」映像祭2024　市民・学生・自治体部門［優秀賞］　作品名：全盲の空手家～父を見て感じるもの～
チャレンジ沖大	7月～2025年2月	おさがりで創る支援の輪プロジェクト　ゐ～ま～る
	11月～2025年3月	つながりの帯ー南風原高校×紅型プロジェクト　赤嶺耕平（23S001）

４. 学事報告

		学事報告
2024年		
4月	2日	2024年度沖縄大学・沖縄大学大学院入学式　※午前・午後に分けて開催
	17日	沖縄大学研究プロジェクト推進委員会にて全学研究プロジェクト採択（3件）
	20日	【共催公開講座】「メディアは全ての人権のため、隠された真実を暴け！ ジェンダーの視点から考える真の安全保障―脱軍事化と脱植民地化を目指して」シリーズvol.3
	22日	「新入生歓迎特集」展示（図書館）
	24日	地域研究所第一回総会
5月	13日	「5月病に負けないぞ！特集」展示（図書館）
	14日	読書のつどい～「技術とは何だろうか」ハイデガーを読む（図書館）
	15日	子どもの貧困ソーシャルワーク研修委託事業①
	17日	新入生歓迎スポーツ大会
	29日	琉球弧研究支援プロジェクトキックオフミーティング
6月	1日	第604回土曜教養講座「地域の未来を拓く～沖縄で考える地域の大学の意義と東アジアの平和～」
	7日	「沖大創立記念日特集」展示（図書館）
	8日	2024年度沖縄大学後援会総会
	14日	子どもの貧困ソーシャルワーク研修委託事業②
	15日	第605回土曜教養講座「ぬちどぅ宝のケア～生きる力を育むスピリチュアルケア～」
	19日	「慰霊の日特集」展示（図書館）
7月	8日	「パリオリンピック × マッスル特集」展示（図書館）
	9日	子どもの貧困ソーシャルワーク研修委託事業③
	10日	地域研究公開講座①「沖縄における中国語及び英語看板・標識の調査について」（王研究班）
	10日	リサイクル図書資料譲渡（図書館）
	10日	那覇市人材育成支援センターまーいまーいNaha・沖縄大学連携講座「グローバル社会における国際コミュニケーション①『国際コミュニケーショ・・・その先にあるもの』」

	17 日	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座「グローバル社会における国際コミュニケーション②『英語ＴＶコマーシャルから異文化社会を考える』」
	20 日	【共催公開講座】「メディアは全ての人権のため、隠された真実を暴け！ 日米共同作戦の拠点化を許すな！―地対艦ミサイル配備、沖縄弾薬庫・陸自訓練場建設」シリーズ vol.4
	24 日	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座「グローバル社会における国際コミュニケーション③『令和の留学事情』」
8 月	1 日	沖縄大学広報 164 号発行
	7 日	冠奨学金証書授与式
	9 日	子どもの貧困ソーシャルワーク研修委託事業④
	15 日	教職員合同研修会
	26 日	地域研究公開講座②「自然災害時の労働問題と災害時非常食の備え」（糸数研究班）
	29 日	久米島地区保護者懇談会
9 月	4 日	宮古地区保護者懇談会
	5 日	八重山地区保護者懇談会
	7 日	第 606 回土曜教養講座「米兵事件はなぜ隠されたのかー見えない壁の正体ー」
	10 日	北部地区保護者懇談会
	13 日	地域研究公開講座③「沖縄から『非戦』を考える」（西研究班）
	27 日	子どもの貧困ソーシャルワーク研修委託事業⑤
	25 日	地域研究所第二回総会
10 月	1 日	「HAPPY HALLOWEEN 特集」展示（図書館）
	5 日	中南部地区保護者懇談会（※台風接近に伴い、9 月 14 日から 10 月 5 日に延期）
	8 日	「教職員のおすすめ本特集」展示（図書館）
	10 日	「本屋大賞受賞図書特集」展示（図書館）
	10 日	「読書の秋！きみも本屋大賞読破王になろう」イベント（図書館）
	15 日	読書のつどい～絵本「かいじゅうたちのいるところ」を読む（図書館）
	18 日	子どもの貧困ソーシャルワーク研修委託事業⑥
	21 日	那覇市の未来共創ワールド・カフェ（模擬議会ワークショップ）
	22 日	読書のつどい～「ペシミストの勇気について」石原吉郎を読む（図書館）
11 月	2 日～3 日	第 65 回沖大祭「エンジョイ、ハロウィン、沖大祭」
	6 日	子どもの貧困ソーシャルワーク研修委託事業⑦
	9 日	那覇市若者ミライ議会
	12 日	「〇〇の秋 集めました特集」展示（図書館）

	12 日	読書のつどい～「確認されない死のなかで」石原吉郎を読む（図書館）
	20 日	地域研究公開講座④「離島のこどもたちと教育」（盛口研究班）
	22 日	「新書大賞受賞図書特集」展示（図書館）
	22 日	教員採用試験合格者体験報告会
	26 日	読書のつどい～「14 歳の君へ」池田晶子を読む（図書館）
	30 日	第 607 回土曜教養講座「沖縄の子どもの貧困対策の到達点とこれから ～10 年目に向けて私たちが取り組むべきこと～」
12 月	3 日	「沖縄文学への誘い特集」展示（図書館）
	4 日	地域研究公開講座⑤「オーラル・ヒストリーを通じて沖縄現代史を学ぶ」（若林研究班）
	5 日	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座「異文化を学ぶ！①フランスのココが面白い」
	6 日	「Xmas 特集」展示（図書館）
	12 日	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座「異文化を学ぶ！②ドイツ文化の魅力」
	17 日	読書のつどい～「相模原障害者殺傷事件が問いかけていること」西章を読む（図書館）
	18 日	子どもの貧困ソーシャルワーク研修委託事業⑧
	19 日	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座「異文化を学ぶ！③意外と知られていない英語発祥の国」
2025 年		
1 月	1 日	沖縄大学広報 165 号発行
	6 日	「お正月特集」展示（図書館）
	10 日	「成人の日特集」展示（図書館）
	16 日	地域研究公開講座⑥「島コショウの伝統的な栽培・利用方法とその食品機能を活かした商品開発」（宮良研究班）
	22 日	地域研究公開講座⑦「沖縄県における臓器提供に関する家族の同意・意思について考える」（富山研究班）
	28 日	子供の貧困ソーシャルワーク研修委託事業⑨
2 月	1 日	第 608 回土曜教養講座「沖縄県内における企業ブランド構築の現在地 ～先駆事例からの取り組みを中心に～」（豊川研究班）
	4 日	子供の貧困ソーシャルワーク研修委託事業⑩
	14 日	琉球弧研究支援プロジェクト成果報告会（10 件）
	15 日	地域研究公開講座⑧「奄美と喜界島のグスク」（宮城研究班）
3 月	14 日	2024 年度沖縄大学卒業式・沖縄大学大学院修了式
	26 日	地域研究所第三回総会
	27 日	外部評価委員会

Ⅲ事業の概要（データ）

１．志願者数・合格者数・入学手続者数

学部　　**※編入除く（人）**

学科	志願者数	合格者数	入学手続者数
経法商学科	501	379	232
国際コミュニケーション学科	170	146	73
福祉文化学科	281	183	124
こども文化学科	180	108	61
管理栄養学科	184	98	81
	1316	914	571

大学院　　**（人）**

専攻	志願者数	合格者数	入学手続者数
地域経営専攻	2	2	1
沖縄東アジア・地域研究専攻	3	1	1
	5	3	2

２．入学金、授業料等の費用

学部　　**（円）**

学　科	初年次				2 年次 3 年次	4 年次	4 年間 合計
	入学金	授業料	その他	合計			
経法商学科	125,000	720,000	118,300	963,300	835,000	855,000	3,488,300
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	125,000	720,000	117,300	962,300	834,000	854,000	3,484,300
福祉文化学科	125,000	720,000	116,300	961,300	833,000	853,000	3,480,300
こども文化学科	125,000	720,000	117,300	962,300	834,000	854,000	3,484,300
管理栄養学科	125,000	720,000	316,660	1,161,660	1,032,000	1,052,000	4,277,660

大学院　　**（円）**

専　攻	初年次納入金	2 年次納入金	合計
地域経営専攻 沖縄・東アジア地域研究専攻	601,750	500,000	1,101,750

３．学内奨学金支給実績

	奨学金種別	年額	2023 年度		2024 年度	
			支給人数（人）	支給総額（円）	支給人数（人）	支給総額（円）
1	冠奨学金	授業料半額相当額	20	7,200,000	20	7,200,000
2	学業奨学金	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額 10 万円	41	8,780,000	30	7,690,000
3	スポーツ奨学金	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額 10 万円	13	3,880,000	11	2,960,000
4	文化活動奨学金	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額 10 万円	0	0	0	0
5	私費外国人留学生奨学金	授業料 60%相当額 授業料 50%相当額 授業料 40%相当額	3	432,000	1	288,000
6	後援会支援特別奨学金	上限 20 万円	18	3,500,000	26	5,100,000
7	後援会支援修学奨学金	上限 20 万円	18	3,600,000	15	3,000,000
8	学校推薦型選抜特別奨学生	授業料半額相当額	143	51,480,000	121	43,380,000
9	スポーツ支援特別奨学生	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額	30	9,360,000	26	8,460,000
10	児童福祉特別奨学生	授業料相当額	4	2,880,000	3	2,160,000
11	共通テスト利用選抜特別奨学生	授業料相当額 授業料 75％相当額 授業料半額相当額 授業料 25％相当額	50	11,160,000	69	15,030,000
12	外国人特別奨学生	授業料半額相当額	9	3,240,000	8	2,700,000
13	二親等(兄弟等)以内同時在学授業料減額制度	2 人目の授業料の 25%相当額	41	5,785,800	39	4,978,300
14	教育ローン等利子負担奨学金	上限 5 万円	3	120,876	8	253,605
15	社会人学生育児支援奨学金	1 人目は 5 万円 2 人目からは 3 万円	2	130,000	廃止	廃止
16	大学院研究奨励奨学金	授業料半額相当額	2	277,500	1	92,500
17	大学院現代沖縄研究奨励金	50 万～100 万	0	0	0	0
		合計	397	111,826,176	378	103,292,405

4/4 確定

４．単位互換協力校との派遣・受入状況、留学生の受入状況

単位互換協定校との学生の派遣・受入状況（2024 年度）

※期間は 1 年間、【　】は半年間で外数。（派）は派遣協定のみ

提携大学（国内）	2024 年度	
	派遣	受入
【北海道】旭川市立大学	0	0
【北海道】札幌大学	0	0
【茨城県】茨城キリスト教大学	0	0
【埼玉県】東京国際大学	0	0
【東京都】津田塾大学	0	0
【東京都】法政大学	1 【1】	0
【東京都】和光大学	0	0
【神奈川県】関東学院大学	0	0
【岐阜県】岐阜協立大学 （旧:岐阜経済大学）	0	0
【愛知県】愛知東邦大学	0	0
【京都府】京都精華大学	0	0
【兵庫県】神戸親和大学	0	0
【広島県】広島修道大学	0	0
計	1 【1】	0

提携大学（海外）	2024 年度	
	派遣	受入
【ｵｰｽﾄﾗﾘｱ】ｻｻﾞﾝｸﾛｽ大学（派）	【2】	
【ｶﾅﾀﾞ】ﾖｰｸ大学（派）	0	
【ｶﾅﾀﾞ】ｼﾞｮｰｼﾞｱﾝｶﾚｯｼﾞ（派）	【2】	
【ｱﾒﾘｶ】ｴｳﾞｪﾚｯﾄｺﾐｭﾆﾃｨｶﾚｯｼﾞ（派）	0	
【中国】西安交通大学（派）	0	
【中国】東華大学	0	0
【中国】上海体育学院	0	0
【台湾】東海大学	0	0
【台湾】東呉大学	0	【1】
【台湾】輔仁大学	0	【2】
【韓国】聖公会大学	0	【2】
【ベトナム】ﾎｰﾁﾐﾝ市師範大学	0	2
計	【4】	2 【5】

海外派遣　短期海外研修（夏季・春季）/派遣国別

国・地域別	学生数	派遣先
フィリピン	12	セブ・グローバリゼーション
オーストラリア	1	インパクトイングリッシュカレッジ
台湾	5	東呉大学語学センター
韓国	12	聖公会大学、建国大学教育語学院
計	30	

留学生の受入状況

国　　別	学部生	院生	研究生	国別計
中　　国	5	0	0	5
台　　湾	3	0	0	3
インドネシア	1	0	0	1
マレーシア	1	0	0	1
ベトナム	1	0	0	1
計	11	0	0	11

海外派遣（長期）/学科別/言語別/累計

学科	語学	2024	累計 (2011～)	合計
経法商学科	英語	1	4	9
	中国語	0	5	
	韓国語	0	0	
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	英語	2	40	104
	中国語	0	46	
	韓国語	0	18	
福祉文化学科	英語	0	1	4
	中国語	0	1	
	韓国語	0	2	
こども文化学科	英語	1	11	13
	中国語	0	1	
	韓国語	0	1	
管理栄養学科	英語	0	0	0
	中国語	0	0	
	韓国語	0	0	
合計		4	130	130

海外派遣（短期）/学科別/言語別/累計

学科	語学	2024	累計 (2011～)	合計
経法商学科	英語	4	17	24
	中国語	0	3	
	韓国語	3	4	
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	英語	5	45	94
	中国語	4	25	
	韓国語	8	24	
福祉文化学科	英語	4	10	15
	中国語	1	2	
	韓国語	1	3	
こども文化学科	英語	0	7	14
	中国語	0	1	
	韓国語	0	6	
管理栄養学科	英語	0	2	2
	中国語	0	0	
	韓国語	0	0	
合計		30	147	149

５．主な資格取得状況

（人）

資格等種別	現役	既卒	合計
教員採用試験　合格者	30	31	61
社会福祉士国家試験　合格者	24	25	49
精神保健福祉士国家試験　合格者	9	1	10
管理栄養士国家試験　合格者	41	1	42
初級パラスポーツ指導員資格　取得者	23	0	23
中級パラスポーツ指導員資格　取得者	4	0	4
健康運動実践指導者試験受験資格　取得者	1	0	1
共通Ⅱ＆ジュニアスポーツ指導員	1	0	1
レクリエーションインストラクター資格　取得者	14	0	14
スポーツ・レクリエーション指導者資格　取得者	17	0	17
Microsoft Office Specialist（MOS 試験）　合格者	44	-	44
ICT プロフィシエンシー検定試験（P 検）　合格者 （※準 2 級・3 級合格者の合計数）	17	-	17

※P 検は、準 2 級と 3 級合格者の合計数
※上記は事務局で把握している人数であり、実際の人数はこれより多い可能性があります。

６．就職率

（%）

学部	学科・専攻		2023 年度	2024 年度
経法商学部	経法商学科		97.3	98.8
人文学部	国際コミュニケーション学科		97.9	97.1
	福祉文化学科	社会福祉専攻	95.6	100
		健康スポーツ福祉専攻	100.0	97.6
	こども文化学科		100.0	100
健康栄養学部	管理栄養学科		100.0	98.5
計			98.2	98.7

（※2025 年 5 月 1 日現在）

７．卒業者数・修了者数

（人）

学部	学科	卒業者・修了者数
経法商学部	経法商学科	219
人文学部	国際コミュニケーション学科	64
	福祉文化学科	104
	こども文化学科	62
健康栄養学部	管理栄養学科	70
計		519
大学院	現代沖縄研究科	2

※2024 年 9 月卒業者数を含む

８．卒業者数累計

卒業者数累計（1960 年度～2024 年度）
27,029 人
※大学院修了者は含んでいない

Ⅳ. 財務の概要

当期の予算の執行状況や、財務の概況を報告いたします。金額は千円未満は四捨五入しています。
なお、差異は学校法人会計基準に基づき、予算の額から決算の額を差し引いた金額になります。

(1)資　金　収　支　計　算　書

資金収支計算書は、本法人の1年間の活動状況を表したものです。この活動をお金の動きで表し、年度末における支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金)がいくらあるかを表したものです。
資金収入には、授業料等の学費や、入学検定料、寄付金、補助金等の収入や負債となる前受金などの収入のほかすべての資金収入を計上します。
資金支出には、教職員に支払う給与、消耗品や水道光熱費等の諸経費、土地、建物、図書、機器備品の購入費等のすべての支出を計上します。
また、資金収入調整勘定とは、収入として計上しているが未収になっているもの、前受金収入として前年度まで既に受け入れている本年度の学納金などを調整するための科目です。

(単位　千円)

収　入　の　部			
科　　目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,063,000	2,040,632	22,368
手数料収入	30,535	26,826	3,709
寄付金収入	28,328	26,007	2,321
補助金収入	664,234	597,405	66,829
資産売却収入	258	86	172
付随事業・収益事業収入	1,997	1,279	718
受取利息・配当金収入	1,596	2,211	△615
雑収入	64,271	66,717	△2,446
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	907,820	870,044	37,776
その他の収入	5,770	15,642	△9,873
資金収入調整勘定	△929,736	△957,825	28,089
前年度繰越支払資金	2,780,494	2,780,494	
収入の部合計	5,618,567	5,469,520	149,046

在籍者数が見込みを下回ったため予算比22,368千円減となりました。

預金金利上昇の恩恵を受けています。

外部団体への教室貸出に係る施設設備利用料収入の増加と、退職者に対する退職金財団交付金収入が含まれています。

学費と一緒に徴収する学会費や後援会費、教職員から給与天引きする共済掛金や所得税等の預り金の年度末残が主な項目であり、大学の収入となるものではありません。

(単位　千円)

支　出　の　部			
科　　目	予算	決算	差異
人件費支出	1,509,269	1,487,998	21,271
教育研究経費支出	1,010,837	911,791	99,045
管理経費支出	112,463	100,962	11,501
借入金等利息支出	8,117	7,241	876
借入金等返済支出	83,360	83,360	0
施設関係支出	30,140	15,319	14,821
設備関係支出	148,377	126,988	21,389
資産運用支出	86,000	87,002	△1,002
その他の支出	45,249	75,262	△30,013
予備費	(11,108) 3,892		3,892
資金支出調整勘定	△45,235	△68,563	23,328
翌年度繰越支払資金	2,626,099	2,642,161	△16,062
支出の部合計	5,618,567	5,469,520	149,046

中途退職者による急な退職金支出もありましたが、予算内に収まりました。

国の高等教育の修学支援新制度の充実により学内奨学金利用者が減少し、奨学費支出が減少しました。

翌年度繰越支払資金は、予算比で16,062千円増となりました。

(2)事　業　活　動　収　支　計　算　書

事業活動収支計算書は事業活動収入及び事業活動支出の内容とその均衡を明らかにする目的で作成します。収支を経常的な収支、臨時的な収支（特定収支）に分け、経常的な収支は更に教育活動収支と教育外活動収支に分けて把握することができるようにしています。
資金収支計算書にはなく事業活動収支計算書に表れる科目としては、減価償却額や退職給与引当金などがあります。
企業会計でいえば損益計算書に相当しますが、学校会計では営利目的ではなく、あくまでも収支均衡が目的となります。

【教育活動収支】

（単位　千円）

教育活動収入の部			
科　　目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,063,000	2,040,632	22,368
手数料	30,535	26,826	3,709
寄付金	28,328	26,037	2,291
経常費補助金	651,557	584,728	66,829
付随事業収入	1,997	1,279	718
雑収入	64,271	66,717	△2,446
教育活動収入計	2,839,688	2,746,220	93,468
教育活動支出の部			
人件費	1,518,441	1,507,002	11,439
教育研究経費	1,181,964	1,104,215	77,748
管理経費	119,829	109,316	10,513
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	2,820,233	2,720,534	99,700
★教育活動収支差額	19,455	25,686	△6,231

学校法人の本業である教育活動による収支を表しています。
★印の教育活動収支差額がプラスですので、教育研究活動に係る支出を、主たる収入で賄えている状態であることがわかります。

【教育活動外収支】

（単位　千円）

事業活動収入の部			
科　　目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	1,596	2,211	△615
教育活動外収入計	1,596	2,211	△615
事業活動支出の部			
借入金等利息	8,117	7,241	876
教育活動外支出計	8,117	7,241	876
教育活動外収支差額	△6,521	△5,029	△1,492

財務活動等に係る収支状況を表し、本学では受取利息・配当金と支払利息が該当します。受取利息よりも、校舎建設等による借入金利息が大きいため、この項目はマイナスとなっています。

【特別収支】

（単位　千円）

事業活動収入の部			
科　　目	予算	決算	差異
資産売却差額	0	10	△10
その他の特別収入	15,915	16,687	△772
特別収入計	15,915	16,697	△782
事業活動支出の部			
資産処分差額	3,000	4,402	△1,402
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	3,000	4,402	△1,402
特別収支差額	12,915	12,296	619

臨時的な収支状況を表しています。研究費等で購入した機器備品等の現物寄付額や故障した機器や破損した図書などの処分差額が計上されています。

予備費	(3,098) 11,902		
基本金組入前当年度収支差額	13,946	32,953	△19,006
基本金組入額合計	△ 214,110	△30,000	△184,110
当年度収支差額	△ 200,164	2,953	△203,116
前年度繰越収支差額	△ 1,534,713	△1,534,713	0
基本金取崩額	0	52,465	△52,465
翌年度繰越収支差額	△ 1,734,877	△1,479,295	△255,582

基本金組入前当年度収支差額が、単年度トータルの収支の状況を表しており、32,953千円のプラスでした。

(3)貸 借 対 照 表

貸借対照表は、年度末(2025年3月31日現在)における本法人の財政状況を明らかにするため、法人の保有する資産、負債、基本金及び翌年度繰越消費収支差額を一覧表示したものです。

資産の部 (単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	5,652,162	5,624,578	27,584
有形固定資産	4,814,655	4,867,885	△53,230
特定資産	771,729	684,868	86,862
その他の固定資産	65,778	71,826	△6,048
流動資産	2,703,017	2,794,878	△91,861
資産合計	8,355,179	8,419,457	△64,278

固定資産の減少は、減価償却のほか、ネットワーク関連機器のリース期間終了に伴う除却などがありました。

このうち現預金が昨年度より138,334千円減少していますが、このうち85,000千円につきましては、固定資産の引当特定資産に繰入れられたものです。

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,044,917	1,123,092	△78,175
流動負債	1,057,012	1,076,068	△19,055
負債合計	2,101,929	2,199,160	△97,230
基本金	7,732,544	7,755,010	△22,465
繰越収支差額	△1,479,295	△1,534,713	55,418
純資産合計	6,253,249	6,220,297	32,953
負債及び純資産の部合計	8,355,179	8,419,457	△64,278

土地、建物に関する支出及び借入金返済、機器備品のリース支払い分が主な組入となります。

基本金について

学校法人は、設置する学校の教育研究やその他の諸活動を行うために校地、校舎、機器備品、図書等の資産を保有しています。そして、それら保有資産のうち教育研究に必要な資産は、教育水準の維持向上と円滑な法人運営を図る観点から常に維持しなければならないことになっています。法人が存続する限り、それらの資産を保有することとなりますが、事業計画の変更・見直し等により基本金の取り崩しが可能になっています。
このように、必要な資産の維持状況を表したものが基本金です。

注記

1.重要な会計方針

(1)引当金の計上基準

徴収不能引当金

未収入金の徴収不能及び貸付金の回収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額692,477,183円を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額の100％を計上している。

(2)その他の重要な会計方針

有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

預り金その他経過項目に係る収支の表示方法

預り金その他経過項目に係る収入と支出は相殺して表示している。

2.重要な会計方針の変更等

該当なし

3.減価償却額の累計額の合計額　2,694,894,106 円

4.徴収不能引当金の合計額　0 円

5.担保に供されている資産の種類及び額

担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。

土地　1,776,226,557 円

建物　1,538,289,747 円

6.翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

270,865,030 円

7.当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8.その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1)有価証券の時価情報

①総括表

（単位　円）

	当年度(2025年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	18,240,000	22,060,800	3,820,800
(うち満期保有目的の債券)	－	－	－
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	35,589,636	25,660,000	△ 9,929,636
(うち満期保有目的の債券)	－	－	－
合計	53,829,636	47,720,800	△ 6,108,836
(うち満期保有目的の債券)	－	－	－
時価のない有価証券	－		
有価証券合計	53,829,636		

②明細表

種類	当年度(2025年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	－	－	－
株式	53,829,636	47,720,800	△ 6,108,836
投資信託	－	－	－
貸付信託	－	－	－
その他	－	－	－
合計	53,829,636	47,720,800	△ 6,108,836
時価のない有価証券	－		
有価証券合計	53,829,636		

(2)関連当事者との取引

該当なし

(4)経年比較表

①資金収支計算書　　(単位:千円)

資金収支計算書			
科目	2022年度	2023年度	2024年度
学生生徒納付金収入	2,084,279	2,086,909	2,040,632
手数料収入	31,121	26,897	26,826
寄付金収入	25,903	28,132	26,007
補助金収入	590,408	604,101	597,405
資産売却収入	892	85,339	86
付随事業・収益事業収入	38,172	1,277	1,279
受取利息・配当金収入	1,583	1,574	2,211
雑収入	63,727	24,393	66,717
借入金等収入	37,460	58,000	0
前受金収入	907,820	907,200	870,044
その他の収入	58,055	58,996	15,642
資金収入調整勘定	△ 1,007,438	△ 968,230	△ 957,825
前年度繰越支払資金	2,437,306	2,504,479	2,780,494
収入の部合計	5,269,289	5,419,069	5,469,520
人件費支出	1,385,506	1,331,981	1,487,998
教育研究経費支出	920,874	922,867	911,791
管理経費支出	99,425	96,220	100,962
借入金等利息支出	9,340	8,272	7,241
借入金等返済支出	71,600	113,960	83,360
施設関係支出	112,467	19,847	15,319
設備関係支出	64,552	102,196	126,988
資産運用支出	61,807	63,166	87,002
その他の支出	83,328	83,152	75,262
資金支出調整勘定	△ 44,089	△ 103,086	△ 68,563
翌年度繰越支払資金	2,504,479	2,780,494	2,642,161
支出の部合計	5,269,289	5,419,069	5,469,520

②事業活動収支計算書

【教育活動収支】　（単位：千円）

科目	2022年度	2023年度	2024年度
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	2,084,279	2,086,909	2,040,632
手数料	31,121	26,897	26,826
寄付金	25,903	28,401	26,037
経常費補助金	590,408	604,101	584,728
付随事業収入	38,172	1,277	1,279
雑収入	63,727	24,090	66,717
教育活動収入計	2,833,611	2,771,674	2,746,220
事業活動支出の部			
人件費	1,469,635	1,348,692	1,507,002
教育研究経費	1,127,375	1,129,402	1,104,215
管理経費	107,759	104,307	109,316
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	2,704,769	2,582,401	2,720,534
教育活動収支差額	128,843	189,274	25,686

【教育活動外収支】　（単位：千円）

科目	2022年度	2023年度	2024年度
事業活動収入の部			
受取利息･配当金	1,583	1,574	2,211
教育活動外収入計	1,583	1,574	2,211
事業活動支出の部			
借入金等利息	9,340	8,272	7,241
教育活動外支出計	9,340	8,272	7,241
教育活動外収支差額	△ 7,757	△ 6,698	△ 5,029

【特別収支】　（単位：千円）

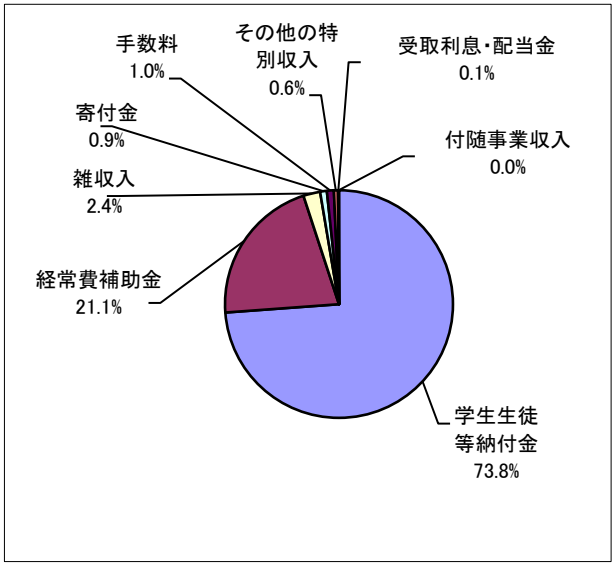
科目	2022年度	2023年度	2024年度
事業活動収入の部			
資産売却差額	9	281	10
その他の特別収入	3,363	11,967	16,687
特別収入計	3,372	12,248	16,697
事業活動支出の部			
資産処分差額	11,419	67,937	4,402
その他の特別支出	0	24	0
特別支出計	11,419	67,961	4,402
特別収支差額	△ 8,047	△ 55,712	12,296

科目	2022年度	2023年度	2024年度
基本金組入前当年度収支差額	113,039	126,863	32,953
基本金組入額合計	△ 192,476	△ 33,000	△ 30,000
当年度収支差差額	△ 79,437	93,863	2,953
前年度繰越収支差額	△ 1,601,621	△ 1,681,058	△ 1,534,713
基本金取崩額	0	52,482	52,465
翌年度繰越収支差額	△ 1,681,058	△ 1,534,713	△ 1,479,295

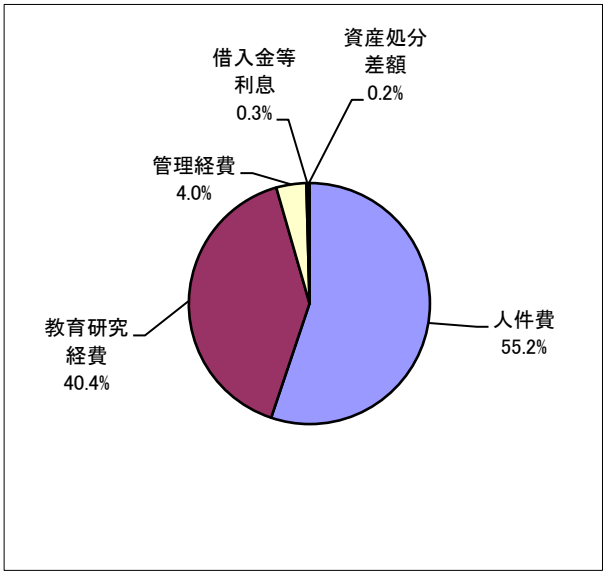
(参考)

事業活動収入計	2,838,566	2,785,497	2,765,129
事業活動支出計	2,725,527	2,658,634	2,732,176
経常収入	2,835,194	2,773,249	2,748,431
経常支出	2,714,108	2,590,673	2,727,774

事業活動収入構成比率(総額:2,764,542千円)



事業活動支出構成比率(総額:2,732,078千円)



③貸借対照表

貸借対照表			
科目	2022年度	2023年度	2024年度
固定資産	(5,795,474)	(5,624,578)	(5,652,162)
有形固定資産	5,093,322	4,867,885	4,814,655
特定資産	622,414	684,868	771,729
その他の固定資産	79,739	71,826	65,778
流動資産	(2,572,859)	(2,794,878)	(2,703,017)
現金預金	2,504,479	2,780,494	2,642,161
その他の流動資産	68,379	14,384	60,856
資産の部合計	8,368,333	8,419,457	8,355,179
固定負債	(1,100,166)	(1,123,092)	(1,044,917)
流動負債	(1,174,733)	(1,076,068)	(1,057,012)
前受金	967,320	907,200	870,044
その他の流動負債	207,413	168,868	186,968
負債の部合計	2,274,899	2,199,160	2,101,929
基本金	(7,774,492)	(7,755,010)	(7,732,544)
第1号基本金	7,353,492	7,301,010	7,248,544
第2号基本金	230,000	260,000	290,000
第4号基本金	191,000	194,000	194,000
繰越収支差額	(△1,681,058)	(△1,534,713)	(△1,479,295)
純資産の部合計	6,093,433	6,220,297	6,253,249
負債及び純資産の部合計	8,368,333	8,419,457	8,355,179

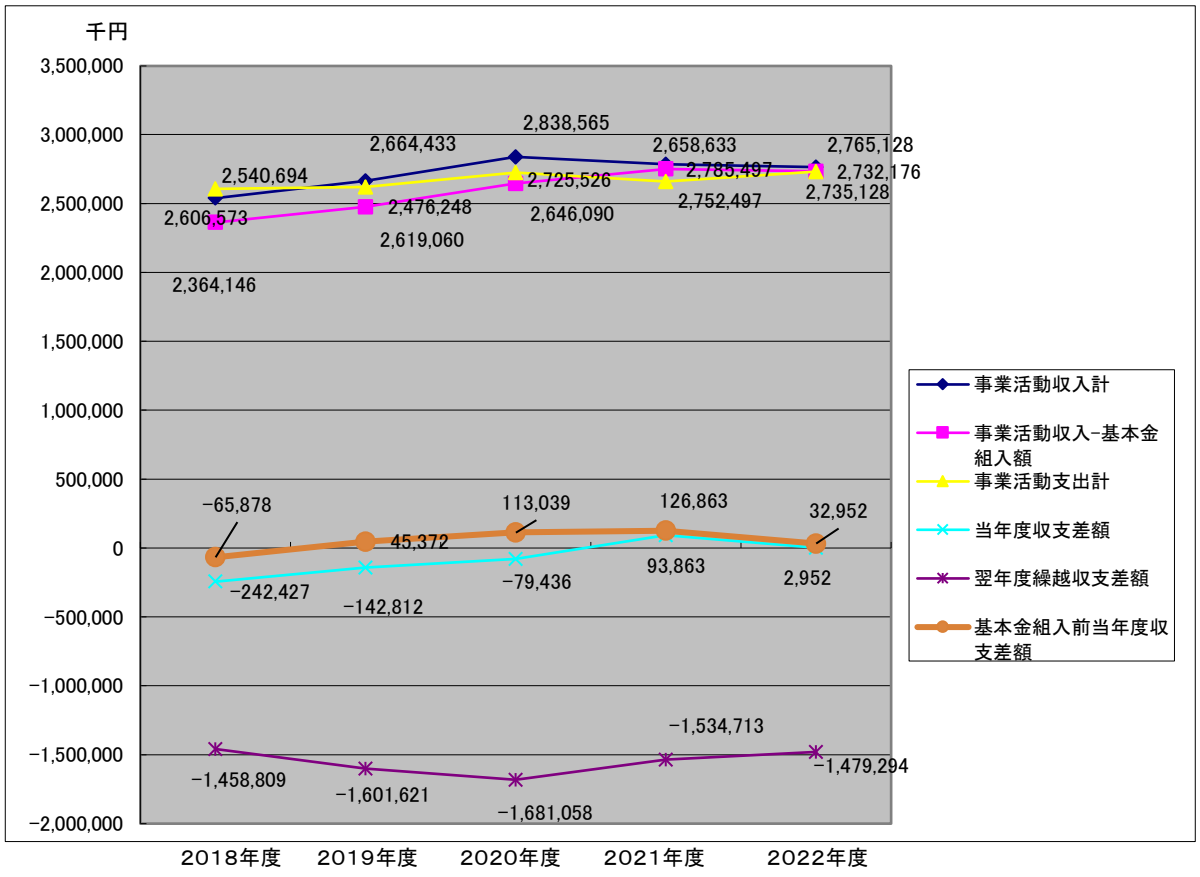
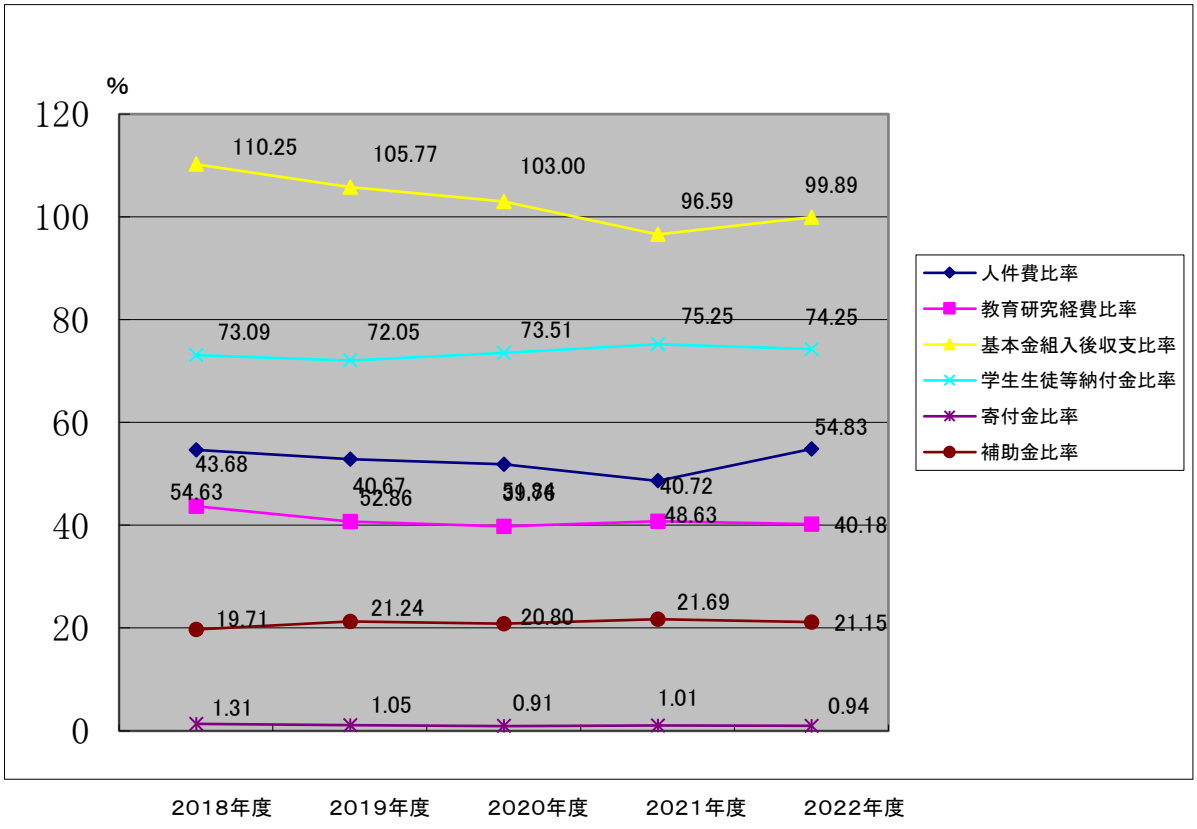
(5)主要な財務比較

事業活動収支計算書			
指標	2022年度	2023年度	2024年度
人件費比率 人件費÷経常収入	51.8	48.6	54.8
人件費依存率 人件費÷学生生徒等納付金	70.5	64.6	73.8
教育研究費比率 教育経費÷経常収入	39.8	40.7	40.2
管理経費比率 管理経費÷経常収入	3.8	3.8	4.0
借入金等利息比率 借入金利息÷経常収入	0.3	0.3	0.3
事業活動収支差額比率 基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入	4.0	4.6	1.2
基本金組入後収支比率 事業活動支出÷(事業活動収入-基本金組入額合計)	103.0	96.6	99.9
学生生徒納付金比率 学生生徒等納付金÷経常収入	73.5	75.3	74.2
寄付金比率 寄付金÷事業活動収入	0.9	1.0	0.9
経常寄付金比率 (教育活動収支の寄付金)÷経常収入	0.9	1.0	0.9
補助金比率 補助金÷事業活動収入	20.8	21.7	21.1
経常補助金比率 (教育活動収支の補助金)÷経常収入	20.8	21.8	21.3
基本金組入率 基本金組入額÷事業活動収入	6.8	1.2	1.1
減価償却額比率 減価償却額÷経常支出	7.9	8.3	7.4
経常収支差額比率 経常収支差額÷経常収入	4.3	6.6	0.8
教育活動収支差額比率 教育活動収支差額÷教育活動収入計	4.5	6.8	0.9

貸借対照表			
指標	2022年度	2023年度	2024年度
固定資産構成比率 固定資産÷総資産	69.3	66.8	67.6
有形固定資産構成比率 有形固定資産÷総資産	60.9	57.8	57.6
特定資産構成比率 特定資産÷総資産	7.4	8.1	9.2
固定負債構成比率 固定負債÷(負債+純資産)	13.1	13.3	12.5
流動負債比率 流動負債÷(負債+純資産)	14.0	12.8	12.7
純資産構成比率 純資産÷(負債+純資産)	72.8	73.9	74.8
繰越収支差額比率 繰越収支差額÷(負債+純資産)	△ 20.1	△ 18.2	△ 17.7
固定比率 固定資産÷純資産	95.1	90.4	90.4
固定長期適合率 固定資産÷(固定負債+純資産)	80.6	76.6	77.4
流動比率 流動資産÷流動負債	219.0	259.7	255.7
総負債比率 総負債÷総資産	27.2	26.1	25.2
前受金保有率 現金預金÷前受金	258.9	306.5	303.7
減価償却比率 減価償却累計額÷減価償却資産取得価額	51.0	53.9	54.1
積立率 運用資産÷要積立額	95.5	98.7	97.2

運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋2号基本金＋3号基本金

経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計
経常支出＝教育活動支出計+教育活動外支出計

(6) 事業活動収支関連グラフ